

特253

837

昭和六年十二月

參考資料

京都水業藏元組合

342

831



始



謹言

肅啓國家多事多端の秋將又業界の危機に直面の今日同業者各位の益々御健勝に亘らせられん事を御祈り申上候

陳者先般奈良市に於ける全國同業者大會に際しては大方各位の御貴臨を忝ふ致し御蔭を以て盛況を極め且又數々の切實熱烈なる御高見の御開陳を賜り機宜に適ひたる業界の刺戟と甚大の裨益を與へられ候事は發起者の一員として光榮至極にて誠に感謝擱く能はざるものに有之候



却説逐年の業界惡化に關しては今更改めて不敏なる私共より申上ぐる迄も無之既に雄渾なる膨張時代も過ぎ萎靡不振時代襲來の當今に於ては今日新銳を誇るの士も明日は等しく既設業者の苦惱を共受致すべきものにして刻下業界の大勢は最早一部人士の術策技巧を許さず須く小異を捨て、大同に就き只々其共存共榮を期すべきものと堅く相信するものに有之候
而も外には外患あり内に經濟と思潮の國難あり業者も亦不振の激浪に飄弄

せられ其赴く處を知らず此儘にして推移せんか果して何れの日何れの地に於て歡語と親和の美しき狀景を見て天與の重大使命に邁進するを得べきか甚だ憂慮に堪へぬもの有之候

此秋に際し時弊の匡救難局打開に奮進致すべきは獨り吾人の自衛と生存の爲のみならず大にしては國家社會の爲小にしては投資者及幾多従業員の爲め方に協同の責務と存じ申候而して何等統制裁力を有せざる吾人の力のみにては百の協定も千の組合規約もこの重大危機を救ふ能はず一日も速に製氷工業組合設立を急務と致すものにて是が目的貫徹の爲めには全國同業者の意志疎通と秩序連繫ある共同戦線の猛運動を必要と存じ其御共鳴實行を切願要望致す次第に有之候

幸東京九州方面に於ても重要産業統制法適用請願の前程として先づ工業組合法の重要工産品指定運動に直進せらるゝ模様承知仕り候

凡そ萬物熱に溶解せざるなく人も亦誠意に親炙せざるは無之候へば吾人も亦全國東西皆其軌を一にして最熱烈なる請願運動を繼續致し候はゞ必ずしも

彼岸に到達するの難事に非ざるべしと存せらるゝものに御座候

既に東北九州其の他の地方に於てもその結束成り請願運動も整然として進捗の由聞承仕り大に敬意を表し居る次第に有之私共も愚鈍に鞭ち遅れ馳せながらその驥尾に附して奮闘仕る決心に有之候

然る處奈良大會決議後未だ全國一貫せる脈絡無之又政治の中心地とも懸け離れ居り候爲め諸事不便にして何となく物足らぬ感有之是非速に本部設立の上運動の中樞及體系を整備致度考へ申候

當方に於ては法規其他に暗き爲め主として大日本製氷の和合氏に御指導を仰ぎ居り候へ共此際巧遅よりも拙速を尙ひ幾何にても御共鳴の地方御組合と共に至急聯合本部を東京に設立の實行に取り懸り度左に應急私案開陳仕候間何卒御高見御回示を賜り度御依頼申上候

就ては不取敢相互連絡を保持致し情況交換願ひ度き目的を以て此程二三地方の先輩諸彦より参考資料として寄贈を受けたる請願書其の他の材料寫及當京都府下の情勢一般等の御紹介を申上げ御挨拶に代ふべく蒐録編纂致すも徒

爾に非ずと存じ資料僅少且つ忽卒の際とて何等纏まりたるものは無之候へ共
一括して刳厥に附し候間御高覽被成下候はゞ本懐の至にて大に光榮とする所
に有之候

私共京都組員一同は業界改善革新の大旆の下に勇往邁進致すべく候間そ
の謗劣を以てし尙且つ掬水を漑いで江河に加へんとする微衷あるを御汲み取
りの上何卒一層の御高教御鞭撻と御愛顧を賜り何分の御援助御協力を奉仰度
惘願旁此段得貴意候 敬具

昭和六年十二月

京都市下京區御幸町四條下ル

京都水業藏元組合

理事長

福地

久吉

副理事長

島谷

憲造

同業先輩各位

目次

- 一、最近ノ京都府下ニ於ケル業界ノ情勢一般
- 二、東京ニ全國組合本部創設ニ關スル京都側應急私案
- 三、重要産業ノ統制ニ關スル法律
- 四、工業組合法中ノ摘録
- 五、全國製氷工場數及製氷能力調査表
- 六、東京製氷藏元組合組員ノ内務大臣ニ提出セル陳情書ノ寫
- 七、宮城縣製氷業組合役員名簿
- 八、宮城縣製氷業組合ノ重要産業統制法案審議會ニ關シ農林商工
兩大臣ニ提出ノ請願書寫
- 九、宮城縣製氷業組合ガ新設會社出現對策ニ付製氷事業統制ニ關
シ縣知事ヘ提出セル請願書ノ寫
- 一〇、全九州製氷業者大會ノ狀況

- 一一、全九州製氷業者大會ノ陳情書寫
- 一二、全九州製氷業者大會調製ノ製氷工業組合設立發起届ノ雛型
- 一三、京都氷業藏元組合ノ新設出願者對策ニ付製氷事業統制ニ關シ府知事へ提出セル陳情書ノ寫
- 一四、京都氷業藏元組合ガ府商工課長へ提出セル製氷業ニ關スル陳情書寫
- 一五、京都府下製氷業者ノ重要工産品指定ニ關シ商工大臣へ提出セル請願書ノ寫
- 一六、京都府下製氷業者ノ府知事へ提出セル請願書進達願ノ寫
- 一七、宮城縣製氷業組合規約寫
- 一八、帝都製氷組合規約寫
- 一九、京都氷業藏元組合規約寫
- 二〇、京都凍氷商聯合組合規約寫
- 二一、附 錄

以上

●組合本部急設案其ノ他參考資料

一、最近ノ京都府下ニ於ケル業界情勢一般

A、京都市ニ於テハ前年新規起業一、増設二、アリ極端ナル氷戰ヲ見タルモ七月下旬殆一夜ニシテ協定經マリ民間全同業者共同販賣組合ヲ組織シタリ然ルニ本年又々新規起業者一、出現シ外ニ出願中ノモノ三、アリ。

仍テ本年五月府知事ニ産業統制ノ陳情ヲ爲シタル所出願中ノ三ハ未ダ許可セラレザルモ尙新規計畫者二、三、アル模様ナリ。

B、本年十一月大會決議ノ狀況等ヲ府商工課長ニ陳情シ工業組合組織ニ關シ指導援助ヲ懇望シタリ。

C、重要工産品指定願ヲ商工大臣へ請願手續中ニテ又京都商工會議所會頭ニモ斡旋盡力方ヲ依頼セリ。

D、京都市及其附近ノ同業者中組合ニ加盟セザルモノハ本年ノ新設業者一ナルモ其他ヲ以テ京都氷業藏元組合ヲ組織シ又丹波、丹後及但馬、若狹地方ハ若丹製氷業組合ヲ組織シ兩組合相互連絡アリ近ク別ニ兩者ヲ網羅スル京都府製氷業組合ヲ組織ノ豫定ナリ。

又奈良縣及滋賀縣地方トハ互ニ諒解連絡アルモ大阪市部ヨリ移入氷ヲ濫賣スル仲買人一、二、アルト中央市場氷ノ小賣等ニ惱マサレ仲買業者ハ相當苦難ナルモ藏元組合ト提携セル京都凍氷商聯合組合ノ

組織アリテ二、三、ヲ除ク外ノ全仲買人之ニ從屬シ比較的統制ハ保タレアリ。
然レドモ水價ハ逐年漸落傾向ニシテ御同様營業ノ苦況ハ陳情書、請願書ニ詳述ノ通ナリ。

二、東京ニ全國組合本部創設ニ關スル 京都側應急私案

一、本部ノ場所

經費節減ノ目的ヲ以テ本部ハ不取敢大日本製氷會社内ニ置クコトヲ交渉致度。(一時臨機處置トシテ)
但シ都合ニ依リテハ帝都製氷組合ニ依頼スルモ可ナリ。

二、會長副會長等

會長ハ大日本製氷社長和合英太郎氏ニ依頼シ副會長等ハ適宜東京ニ於ケル有爲ノ同業者ヲ推選スル目
的ヲ以テ和合氏及帝都製氷組合ニ其詮考ヲ委任致度。

三、經費

本部書記ハ大日本製氷社員ノ兼任ヲ依頼シ其給料及通信印刷費等其他經常費ハ當分大日本製氷ノ寄附
ヲ願フ様交渉致度。

各支部ヨリ上京スル組合員ノ費用及各支部ノ經費ハ總テ其支部ニ於テ負擔スル事。
但シ本部ニ於ケル機密費ハ各支部ト合議ノ上協同負擔トスル事。

四、連絡及指針

各支部ヨリ情況ヲ報告セシメ本部ニ於テ取經メ全國的情勢ヲ各支部ニ屢通報シ且ツ必要ノ指針ヲ與フ
ベシ。

五、近キ將來ニ對スル希望

加盟支部ノ擴大ニ勉メナルベク速ニ獨立セル事務所ヲ設ケ規約其他ヲ完成シテ有力者ヲ總裁ニ仰ギ府
縣長官其他ヲ顧問相談役ニ委嘱スル等本會(本組合)ノ陣容ヲ整ヘ冷凍協會ニ對立シテ本業ノ社會的地
位ノ向上認識ニ努メ同業者ノ穩健ナル發達ヲ促進スル事。

六、本部設立ノ時期及其他

本年内ニ設立ヲ期シ新春早々各支部代表者本部ニ集合シ諸般ノ打合ヲ爲シ度シ。
右ニ關シ御高見ヲ京都水業藏元組合迄至急御回示願度シ。以上

三、重要産業ノ統制ニ關スル法律 (昭和六年法律第四十號)

第一條 重要ナル産業ヲ營ム者生産又ハ販賣ニ關シ命令ノ定ムル統制協定ヲ爲シタル場合ニ於テ同業者

二分ノ一以上ノ加盟アルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ之ヲ廢止變更シタル
トキ亦同ジ

前項ノ産業ノ種類ハ統制委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ指定ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル産業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル事項ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ

第二條 主務大臣前條ノ統制協定ノ加盟者三分ノ二以上ノ申請アリタル場合ニ於テ當該産業ノ公正ナル利益ヲ保護シ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ統制委員會ノ議ヲ經テ當該統制協定ノ加盟者又ハ其ノ協定ニ加盟セザル同業者ニ對シテ其ノ協定ノ全部又ハ一部ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三條 主務大臣第一條ノ統制協定ガ公益ニ反シ又ハ當該産業若ハ之ト密接ナル關係ヲ有スル産業ノ公正ナル利益ヲ害スト認ムルトキハ統制委員會ノ議ヲ經テ其ノ變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

第四條 主務大臣第一條ノ統制協定ニ對スル監督上必要アリト認ムルトキハ統制協定ノ加盟者ニ對シ又ハ協定ニ加盟セザル同業者ニシテ第二條ノ規定ニ從ヒ協定ニ依ルベキコトヲ命ゼラレタル者ニ對シ業務ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 本法ニ定ムルモノ、外統制委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ科料ニ處ス

第七條 重要ナル産業ヲ營ム者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一、第二條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命令ニ違反シ當該統制協定ニ依ラザルトキ
二、第三條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命令ニ從ハザルトキ

第八條 第四條ノ検査ヲ拒ミ妨グ若ハ忌避シ又ハ同條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 重要ナル産業ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人ソノ他ノ從業者ガソノ業務ニ關シ第七條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テソノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ズ

第十條 第七條ノ規定ニ依リ重要ナル産業ヲ營ム者ニ適用スベキ罰則ハソノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役ソノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハソノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行後五年間ヲ限リソノ效力ヲ有ス
前項ノ期間内ニ爲サレタル本法又ハ本法ニ基キテ爲ス處分ニ違反スル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

以上

四、工業組合法中ノ摘錄 (大正十四年三月三十日(總、農、) 法律第二十八號(大臣副署))

沿革 昭和六年四月法律第六二號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工業組合法

第一條 重要工產品ノ製造ニ關スル工業者ハ其ノ工業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ

工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要工産品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 工業組合ハ法人トス

第三條 工業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一、組合員ノ製品、其ノ原料若ハ材料又ハ製造若ハ加工ノ設備ニ對スル検査其ノ他必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限
 - 二、組合員ノ製品ノ加工又ハ販賣、組合員ノ營業ニ必要ナル物ノ供給、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設
 - 三、組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設
- 組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲ゲタル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得(第四條以下省畧)

●工業組合法第一條第二項ノ規定ニ依ル重要工産品指定 (昭和六年六月二十九日(商工省告示第三十二號))

工業組合法第一條第二項ノ規定ニ依ル重要工産品ヲ左ノ通指定ス
大正十四年八月商工省告示第六號ハ之ヲ廢止ス

綿織物(交織物ヲ含ム)	絹織物(交織物ヲ含ム)	毛織物(交織物ヲ含ム)	麻織物(交織物ヲ含ム)
人造絹織物(交織物ヲ含ム)	布帛製品	莫大小及同製品	金屬製品
自轉車	時計	電球	陶磁器
磷寸	護謨製品	セルロイド製品	紙及同製品
磷酸肥料	イソキ	珪瑯鐵器	硝子製品
漆器	眞田	玩具	鈕釦
刷子	帽子	鉛筆	人造眞珠
傘	水晶製品	製麵	罐罎詰食物
木竹製品	蘭薙及野草薙		

五、全國製氷工場數及製氷能力調査表

地方別	工場數	製氷能力	地方別	工場數	製氷能力
奥羽地方			秋田	二	一五〇
青森	五	一一〇	岩手	七	一五八
				七	〇

地方別	工場數	製水能力
中國地方	二四	一四一、 _電 〇
岡山	一八	二三六、〇
廣島	一九	一、二七八、〇
山口	三	五〇、〇
鳥取	七	一〇六、五
島根	七	一、八一、五
小計	七一	一、八一、五
香川	一〇	九〇、〇
高知	一八	二二二、〇
徳島	四	四四、〇
愛媛	八	九八、〇
小計	四〇	四五四、〇
九州地方	四〇	七九二、〇
福岡	九	八五、〇

九

地方別	工場數	製水能力
佐賀	八	六八、 _電 〇
熊本	一一	一二三、〇
長崎	一五	六二〇、〇
宮崎	一六	四六、〇
鹿兒島	一六	二〇一、〇
小計	一〇五	一、九三五、〇
北海道	二	二〇、〇
沖繩	一	一五、〇
臺灣	五六	八八〇、〇
關東	四	二〇五、〇
南洋	一	五、〇
總計	七三二	一三、五七三、五

地方別	工場數	製水能力
宮城	二四	五〇七、 _電 〇
山形	六	四三、〇
福島	一三	一二七、五
小計	五七	九六〇、五
關東地方	三七	七五、〇
群馬	七	四〇、〇
栃木	三	四五、〇
茨城	一〇	九五、五
埼玉	二	三五、〇
千葉	一〇	一一三、〇
東京	六一	二〇三一、〇
神奈川	二五	四六〇、〇
小計	一八	二、八四九、五
中部地方	三六	四六一、〇
靜岡	四	五五、〇

地方別	工場數	製水能力
長野	二	四三九、 _電 五
愛知	六	八三、〇
岐阜	四	六五、〇
新潟	五	六二、〇
富山	六	一三七、〇
石川	九	七六、〇
福井	九	一、三七八、五
小計	九三	一、三七八、五
近畿地方	一七	一五七、五
三重	五	四二、〇
奈良	三	一七五、五
和歌山	四	三七、五
滋賀	二	四五七、〇
京都	三	一、七五六、〇
大阪	一七	三、二三九、五
小計	一七〇	三、二三九、五

八

六、東京製氷藏元組合組合員ノ内務大臣ニ 提出セル陳情書寫

陳 情 書

製氷業ハ食糧問題ト密接ナル關係ヲ有シ且ツ國民ノ生活保健上頗ル重要ナル使命ヲ帶ブルガ爲政府ニ於テモ其獎勵ニ努メ隨ツテ我國ニ於ケル製氷業ハ近時異常ノ進展ヲ見ルニ至レリ。

然ルニ比較的進展ノ中途ニアル冷蔵業ハ暫ク置キ製氷業ハ近時濫設ノ慘狀ヲ呈シ斯業者ノ困憊ハ勿論也ヒテハ國家經濟上モ亦寒心ニ堪エザル狀況ニ在リ、今全國ニ於ケル製氷事業ヲ經營スル會社ハ其數殆ンド三百五十ニ達シ公稱資本ノ總額亦壹億圓ヲ超ヘ然カモ實際ノ投資額即チ拂込資本金ト借入金ヲ合算セバ實ニ壹億五千萬圓餘ノ驚ク可キ巨額ニ達セリ、然ルニ需要供給ノ現狀ヨリスレバ其設備ノ半數ハ生産過剩ノ爲能力ヲ發揮スルノ餘地ナク徒ラニ資本ヲ空費スルノ實狀ニアリ。

今一例ヲ東京府下ニ於ケル三十有餘ノ製氷業者ニ取り營業ノ實際的計數ヲ見ルニ比較的天候ニ惠マレタル昭和四年度ニ於テモ尙其製産能力年額六十萬噸餘ニ對シ需要高ハ約二十萬噸餘ニ過ギズシテ各社ノ窮狀ハ蓋シ名狀スベカラザルモノアリ。即チ一ケ年ノ作業日數ハ僅々四ケ月ヲ出デザルノ悲況ニシテ然モ是單リ東京府下ノ現象ノミナラズ全國各地ノ實狀亦如斯シ。以テ今ニシテ適當ナル整理統制ノ方途ヲ講ズルニ努メザレバ遠カラズシテ斯業ノ破綻ヲ來タスヤ必セリ。

加之近時續々完成シツ、アル中央市場法ニヨル各地中央市場ノ製氷設備ハ更ニ民間企業ヲ壓迫シツ、アリ、勿論斯ル公設々備ノ擴張新設ハ斯業ガ一面公益事業トシテノ重大ナル性質ヲ帶ブルガ爲ナレ共顯ツテ所謂公益事業ト稱セラル、電氣瓦斯等ノ事業ニ對比スル時ハ其等ニハ公共團體トノ價格協定等特別ノ恩惠アルノ外尙夫々該事業ノ統制保護ニ關スル獨立法規アリ、然ルニ獨リ斯業ニアリテハ何等ノ統制規定ナク内ニ濫設ヨリ生ズル無秩序、無統制ノ苦患アリ外ニ公營企業ノ脅威アリ進退共ニ窮ラントスル現狀ニシテ之ヲ救フハ一ニ國家ノ強制力ニヨル統制整理ノ外ナシト信ゼラル、勿論民間業者自身地方的ニ同業組合ヲ組織シ以テ商品ノ生産並ニ販賣ノ協定ヲ行ヒ極力斯業ノ統制ヲ計リツ、アレ共何分ニモ民間ノ任意組織ナル爲其統制力ハ甚ダ微弱ニシテ業界ノ整理統制ハ愚カ僅カニ現狀ヲ維持セントスルニ汲々タル狀態ニアリ、然モ一方其企業形態ガ比較的簡易ニシテ小資本起業ノ可能ナル爲年々隨時隨所ニ新設ヲ見其ノ底止スル所ヲ知ラズ斯ク設備ハ増大スルニ引キ換ヘ製品ハ本質上純然タル國內商品ニシテ過剩製品ノ販路ヲ海外市場ニ求ムルコトハ全然不可能ナリ。從ツテ狹隘ナル國內市場ニ於テ年々猛烈ナル「ダンピング」ノ結果常ニ採算ハ無視セラレ單ニ業績ノ惡化ヲ來スノミナラズ、斯ル結果トシテ仲買營業者モ亦非常ナル困窮ニ陥リ遂ニハ其從業者間ニ流血ノ慘ヲ見ル暴力行爲頻發スル等アリテ斯業ヲ現狀ノ無統制狀態ニ放置スルハ實ニ由々シキ問題ナリト思考セラレ。

要之我國ニ於ケル製氷業者ノ現狀ハ以上縷陳ノ如キ窮狀ナルヲ以テ希クバ今般御制定ノ「重要産業ノ統制ニ關スル法律」ニ該當スル重要産業ノ一トシテ我製氷業ヲ御指定ノ上適當ナル整理統制ヲ可能ナラシメラレ度此處ニ實狀ヲ具シテ奉悃願候也。

内務大臣 安達謙藏殿

東京製氷藏元組合

組合員

和合英太郎以下連名省畧

七、宮城縣製氷業組合役員名簿

顧問	宮城縣知事	湯澤三千男
相談役	宮城縣水産課長	松本孝四郎
同	宮城縣衛生課長	淺海脩藏
同	宮城縣商工課長	橋本清吉
同	宮城縣水産會副會長	松山平兵衛
組合長	宮城縣內務部長	坂本景次
副組合長	鹽釜港製氷株式會社々々長	高橋
評議員	山三カーバイト株式會社三和製氷部	橋本
同	鹽釜港製氷株式會社	景次
同	双立製氷倉庫株式會社	
同	東北製氷冷蔵株式會社	

同	白石製氷株式會社
同	石卷製氷冷蔵株式會社
同	羽後製氷株式會社石卷工場
同	牡鹿製氷冷蔵株式會社
同	氣仙沼港製氷株式會社
同	氣仙水力電氣株式會社氣仙沼製氷部

八、宮城縣製氷業組合ノ重要産業統制法案審議會

ニ關シ農林商工兩大臣ニ提出ノ請願書寫

請願書

現在宮城縣下所在ノ製氷會社ハ別記ノ通り二十六會社有之其ノ一日生産能率ハ五百餘噸ニ上ルヲ以テ本縣ノ産業トシテハ金華山漁場ヲ控ヘテ年々多額ノ生産ヲ爲セル水産業ト我ガ製氷業トハ全ク唇齒補車ノ關係ヲ有シ相共ニ本縣重要産業タルモノニ有之候。

然ルニ近年需要額ト供給額トノ調節ヲ無視セル新設製氷會社ガ簇出シ生産過剩ノ傾向有之候處目下深刻ナル經濟界ノ不況ニヨリテ一般鮮魚購買力ノ減退並ニ魚價ノ低落ノ爲メ漁業家ノ事業中止トナリ魚獲

高ノ減少ヲ來シ爲メニ無節制ナル販賣ヲ爲サントスルノ結果ハ當然水價ノ低落トナリテ内容ノ急迫シ居
レル製氷業者ハ互ニ相競フテ生産費ヲ顧慮セズ投資ヲ開始シ製品ノ單純性ハ一層其ノ競争ヲ熾リテ今ヤ
製氷同業者一般ハ極端ナル苦境ニ沈淪致候斯クノ如キ状態ニテ尙繼續セバ縣下二十六會社中破綻ヲ免レ
ザル者殆ド皆無ノ状態ト相成ル事ト被存候。

是レガ救済ノ一策トシテ今般同業者相會シ縣下製氷同業組合ヲ組織シ目下着々其ノ結束ヲ固メツ、ア
リソノ組合ノ結束力ニヨリテ水價ノ低落ヲ防止セントシタルモ何分侵々乎トシテ迫リ來レル財界ノ不況
ハ德義ヲ主トシ紳士道ヲ以テ組織セル組合ニテハ力アル統制ヲ爲ス事ハ到底不可能ノ状態ニアル事ヲ自
覺スル次第ニ御座候。

就テハ政府ニ於カレテ目下御制定ニ相成ラントシテ御懸案中ト聞及候重要産業統制法ノ品目中ニ是非
製氷事業ノ項目モ御加入被爲下度以テ製氷事業ニ對シテ充分ナル御保護御獎勵ヲ下シ給ハル様切望ニ堪
エザル次第ニ有之右事情具陳奉請願候也。

昭和六年八月三十日

宮城縣製氷業組合

組合長

坂 木

暢

農林大臣、商工大臣 (各通)

●猶宮城縣組合ハ九月一日青森製氷株式會社、山形製氷工場、三陸水産冷蔵株式會社ニ對シ各縣ニ於テ
モ縣ヲ通ジ請願書提出方ヲ依頼セリトイフ。

九、宮城縣製氷業組合ガ新設會社出現對策ニ付

製氷事業統制ニ關シ提出セル請願書ノ寫

製氷事業統制ニ關スル請願書

現在宮城縣下所在ノ製氷會社ハ別記ノ通り二十六會社有之其一日ノ生産能率ハ五百餘噸ニ上ルヲ以テ
本縣ノ産業トシテハ金華山漁場ヲ控ヘテ年々多額ノ生産ヲ爲セル水産業ト我製氷業トハ全ク唇齒補車ノ
關係ヲ有シ相共ニ本縣重要産業ナルモノニ有之候。

然ルニ年々需要額ト供給額トノ調節ヲ無視セル新設製氷會社ガ簇出シ生産過剩ニ惱ミ居候處目下經濟
界ノ深刻ナル不況ノタメ漁業家ノ事業中止トナリ製氷需要ノ激減ヲ來シ各社ハ互ニ生産費ヲ顧慮セズ投
賣ヲ開始シ今ヤ製氷同業者一般ハ極端ナル苦境ニ沈淪致居ルモノニ有之候斯ノ如キ状態ニテ尙繼續セン
カ縣下二十六會社中破綻ヲ免レザル者殆ド皆無ノ状態ト相成ル事ト被存候。

就テハ將來本縣下ニ於テ新設製氷工場出願セラル、ニ際シテハ御當局ニ於カレテモ目下製氷界ノ苦境
ト水産業ニ對スル重大關係トヲ何卒御明鑑ノ上産業統制ノ御主旨ヲ以テ既設製氷事業ニ對シ充分ナル御
保護ヲ賜ル様御取計成被下度希望ニ不堪次第ニ有之茲ニ本組合ノ決議ヲ以テ右事情具陳奉請願候也。

昭和六年十月二十八日

宮城縣製氷業組合副組合長

宮城縣製氷業組合副組合長

高 橋

景 次

宮城縣知事 湯澤三千男殿

一〇、全九州製氷業者大會ノ狀況 (山田氏發翰印刷文寫)

昭和六年十一月六日

全九州製氷業者大會實行委員 代理 山田盛雄

各位

拜啓 陳者本月五日午後一時ヨリ大日本製氷博多出張所ニ於テ實行委員會ヲ開催シ斯業ノ統制ニ關シ種々協議仕候結果全國大會ノ趣旨及方針ト同様重要産業統制法ノ適用ハコレヲ終局ノ目的トシ不取敢現任ハソノ豫備的手段トシテ工業組合法ノ適用ニ向ツテ邁進スル方適切有效ニシテ然カモ捷徑ナルヲ感知シ之ガ目的ノ達成上左記ノ通り實行ノコトニ協議相纏マリ申候間此段及御報告候也。

勿論該目的ノ達成ニハ關係各縣ノ助成モ可有之ソノ成功ハ疑ヒナキモノト確信罷在候得共前途尙多少ノ困難ハ免レザルモノト存ジ申候ニ付各位ノ熱烈ナル御後援ヲ只管切望仕候。

追而義キニ御請求申上候經費分擔金御未納ノ向キハ此際至急御送金被下度重ネテ御督促申上候、尙同封册子ハ御參考迄ニ御送付申上候次第ニ付充分御研究置キ被下度候。

出 席 者 報 告

福岡縣 大牟田製氷株式會社 白田久内

(次第不同)

大分縣	別府製氷株式會社	岩尾米造
佐賀縣	佐賀製氷株式會社	御厨徳次郎
熊本縣	熊本製氷株式會社	波多野徳
長崎縣	大日本製氷長崎出張所	宮田文作
傍席者		
山口縣	大日本製氷下關出張所	柏木寛
福岡縣	共同製氷合名會社	日高種一郎
同	三帆清涼飲料製氷部	中原敬祐
同	大日本製氷博多出張所	山田盛雄

協議決定事項

一、陳情運動ニ關スル件

- (A)、工業組合法ヲ製氷業ニ適用セラレンコトヲ其筋ニ陳情スルコト
- (B)、陳情ハ各縣別々一齊ニ地方長官ヲ經テ行ヒ目的達成ノ上ハ行政區域ニ依ル組合ヲ設立シ然ル後九州聯合會ヲ組織シテ完全ナル統制ヲ圖ルコト
- (C)、陳情文案ノ起草ハ御厨佐賀委員ニ委嘱シ同委員十一月六日迄ニ其草案ヲ作成シテ事務所ニ送達スルコト
- (D)、大日本製氷博多出張所ハ接受シタル草案ニ基キ一縣三部宛印刷ニ附シコレヲ十一月十日迄ニ各縣

委員迄送致スルコト

(E)、各縣委員ハ適當ノ方法ニ依リ該陳情書ニ對スル業者ノ調印ヲ十一月十一日ヨリ同月二十日迄ノ間ニ取經メヲナスコト

(F)、業者調印済ミノ陳情書ハ實行委員ニ於テ直チニ所轄官廳ニ差出シコレガ申達ヲ願出ヅルモノトシ尙爾後申達ノ事實ニ注意シ一刻モ早ク本省へ到達スル様努力スルコト

(G)、地方長官ノ申達済ミヲ確認シタル際ハ速刻ソノ事實ヲ各委員ニ電報ヲ以テ通知スルコト

二、設立發起ニ關スル件

(A)、前項陳情書提出ト同時ニ工業組合設立發起ニ關スル申請書ヲ其筋ニ提出スルコト

(B)、設立發起申請書ノ提出順序其他總テハ前項陳情運動ノ(B)(C)(D)(E)(F)(G)ト完ク同様ニ付以下省略ス。

三、上京委員選定ノ件

(A)、陳情書及設立發起申請書ノ提出ニ依リ地方長官ハ法令ノ定ムル處ニ因リ副申請書ヲ添付シテ本省ニ送達スルモノナルモ尙本省ニ向ツテハ特ニ業者直接ノ運動ヲ必要トスルコト

(B)、前項ノ理由ニ依リ互選ヲ以テ上京委員三名ヲ選定ス(左ノ通り決定)

、經費分擔金徴收ニ關スル件

福 岡 縣	大 分 縣	佐 賀 縣	大 分 縣	別 府 製 氷 株 式 會 社	岩 尾 米 造	御 厨 德 次 郎
大 牟 田 製 氷 株 式 會 社	白 田 久 內	佐 賀 製 氷 株 式 會 社	御 厨 德 次 郎			

規定ノ方針及方法ニ依リ各縣實行委員ニ於テ極力之ガ取立テヲ勵行スルコト

以 上

一一、全九州製氷業者大會ノ陳情書寫

陳 情 書

近年打續ク財界ノ不況ハ我製氷界ニモ著シク之ガ打撃ヲ蒙リ殊ニ近頃到ル處工場濫設ノ結果ハ忽チ生産過剩ヲ呈シ延テ同業者ノ無謀ナル競争トナリ又此渦中ニ投ゼル一種不正仲買業者ハ種々ノ惡計ヲ企圖シテ需供兩者ヲ欺キ營業上ノ弊害ヲ續出セルノミナラズ時ニ公安ヲ害シ由々シキ椿事ヲ惹起セルコトナキヲ保シ難シ就中今夏ノ如キハ不慮ノ惡天候ニ災セラレタルタメ一層其ノ激烈ナルヲ痛感シ業者ノ多クハ無配缺損ノ慘狀ヲ見ルニ至リ候此儘ニ推移センカ途ニ共倒ノ悲運ヲ見ルハ火ヲ見ルヨリモ明カニシテ誠ニ遺憾トスル所ニ御座候之レ畢竟同業者間ニ一定ノ規律統制ナキ結果ニシテ我產業界ノ一大病弊トスル所ニ御座候

現在本邦製氷界ノ狀態ヲ見ルニ會社數貳百五拾社以上ニシテ其工場數ハ七百七十工場ニ達シ一日ノ生産率一萬四千噸投下資本額亦壹億萬圓以上ニ及ベルニモ拘ラズ實際需用ノ年額ハ百八十四萬噸ニ過ギズシテ其大半ハ生産過剩トナリ之ガタメ如何トモ收拾スベカラザル一大危機ニ瀕セリ故ニ同業者ハ此際最モ慎重ナル態度ヲ以テ小異ヲ捨テ、大同ニ就キ規律統制アル組合ノ強力ニ依リテ直面セル不況打開策ヲ

講究スルノ必要且ツ急務ナルヲ痛感スル處ニ御座候

我九州製氷業者ハ昭和六年十月十日大分縣別府市ニ於テ大會ヲ開催シ非常熱烈ナル裡ニ滿場一致ヲ以テ此際製氷ヲシテ重要産業統制法ノ適用ヲ受クベキコトヲ懇望シ閣下ノ御明鑑ヲ仰ギ一路目的達成ニ努力邁進センコトヲ決議シタルモ同月二十二日奈良市ニ於テ開催セル全國製氷業者大會ハ寧ロコレガ準備行爲トシテ各府縣ニ堅實ニシテ且ツ權威アル組合ヲ組織スルコトニ決議セルヲ以テ茲ニ其窮狀ヲ披瀝シコレガ適當ノ御助成ヲ歎願スル次第ニ御座候依ツテ幸ニ工業組合ヲ設立スルヲ得バ益々製品ノ改良ヲ計ルト共ニ用途ニ依ル販賣價格ノ公正ナル協定ヲ遂ゲ以テ需供兩者ノ便宜ヲ計リ斯業ノ順調堅實ナル發達ヲ期スベクコレ國民經濟更生ノ福利ヲ増進スル所以ナリト存候間業者ノ窮狀御洞察ノ上速ニ工業組合法ノ品目中ニ追加御指定相成ル様一同連署ヲ以テ茲ニ謹ミテ陳情仕候也

昭和六年十一月 日

一、全九州製氷業者大會調製ノ製氷工業 組合設立發起屆ノ雛型

縣製氷工業組合設立發起屆

今般別紙調書ノ通り工業組合法ニ依リ

昭和六年十一月 日

縣製氷業組合ヲ發起致候條此段及御屆候也

調書

一、地、區、員

一、地、區、員

二、組合員タル資格

二、組合員タル資格

三、出資一口ノ金額及其拂込方法

三、出資一口ノ金額及其拂込方法

出資一口ノ金額ヲ貳拾圓トシ組合設立ノ認可アリタルトキハ遲滞ナク一口ニ付五圓ヲ拂込ムモノトス

第一回拂込後ハ配當スベキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノノ外一口ニ付貳圓以上ヲ毎年九月三十日迄ニ拂込ムモノトス

四、事業計劃ノ概要

一、製品ノ改良ヲ計ルコト

二、用途ニ依ル販賣價格ノ公正ナル協定

三、販賣區域ノ協定

四、製氷ノ共同販賣

五、製産ノ制限調節

- 六、低利資金ノ借入及運用ニ關スルコト
- 七、組合員ノ營業ニ關スル指導研究及需要喚起ニ關スル件
- 八、原料及其他物品ヲ共同購入シ之ヲ組合員ニ供給スルコト
- 九、組合業務上利害得失ニ關スル事項ヲ官廳へ請願若クハ建議スルコト
- 十、其他前各項ニ附隨スル一切ノ事業

組合設立ヲ必要トスル理由書

我產業界ノ病弊ノ最顯著ナルモノハ同業者間ニ一定ノ規律統制ナク動モスレバ無謀ノ競争ニ走り殊ニ生産過剩ノ結果ハ價格ノ賣崩トナリ遂ニ共倒ノ愚ヲ演ズルコト勿論ノ義ニ有之候我製氷業ニ於テモ近年到處工場濫設ノタメ著シク生産過剩トナリ業者ノ無謀ナル競争ハ延テ一般仲買業者ヲ困窮セシメ又極端ナル不正仲買業者ノ横行ハ營業上ノ弊害ヲ續出セルノミナラズ所々ニ不祥事ヲ瀕發シテ公安ヲ害スル等ノ事アルヲ認ムルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ就中今夏ノ如キハ不慮ノ惡天候ニ災ヒセラレタルタメ一層其激烈深酷ナルヲ痛感スルト共ニ概ネ無配缺損ノ慘澹タル状態ヲ見ルニ至レリ斯クテハ獨リ業者ノ忍ビ難キ苦痛ナルノミナラズ延テ產業界ノ不振ヲ招來スル惧アルヲ以テ茲ニ工業組合ヲ設立シ統一セル機關ニ依リテ製品ノ改良ヲ計リ用途ニ依ル販賣價格ノ公正ナル協定ヲナシ營業上ノ弊害ヲ矯正シテ共存共榮ノ途ヲ講ズル必要ヲ認ムルニ由ル

一三、京都氷業藏元組合ノ新設出願者對策ニ付製氷事業統制ニ關シ府知事へ提出セル陳情書ノ寫

製氷業ニ關スル陳情書

製氷冷蔵業ノ國家食糧政策ニ緊密ナル關係ヲ有シ國民ノ保健衛生上最重要ナル使命ヲ帶ブルコトハ一般ニ認識セラル、ト共ニ著シク業界ノ覺醒ヲ促ガシ急激ナル進展ヲ見ルニ至レリ而カモ此急速ナル進展必ズシモ合理的ニアラズシテ寧ロ不堅實ナル企業家ノ濫出セル反映トモ見ルコトヲ得ベク國家產業經濟上寔ニ寒心ニ堪ヘザルモノアリ。

現時我國ニ於ケル製氷冷蔵ヲ經營セル會社數參百ヲ超エ其工場冷蔵庫等モ亦一千ヲ算セントシ、全國樞要ノ地ニ殆ンド其設備ヲ見ザルハナク一般ニ生産過剩ニ惱ミツ、尙益々續出スル新規出現者ニ對シテハ辛フジテ自己存立ヲ確保スベク苦闘ヲ續クルノ慘狀ヲ呈セリ、加之我國製氷冷蔵業者ノ公稱資本ハ一億圓、而カモ其實際ノ投資額壹億五千餘萬圓ノ巨額ニ達シ有數ナル産業ノ一ナルニ係ラズ概ネ生産過剩ニ災セラレテ全能力ヲ發揮スルコト能ハズ徒ラニ巨資ヲ空費スルノ實狀ニアルハ全國各製氷會社株價ノ激落ニ徴スルモ明カナル事實ナリトス。

今京都府下ニ於ケル製氷業者(七社二個人)ニ就キ其營業ノ實際的計數ヲ見ルニ昭和五年度ニ於ケル生産能力ハ年額十四萬餘噸、而シテ製造高ハ僅カニ六萬噸ニシテ其能力ノ半ニ達セズ、需要モ亦隨ツテ三

萬七千噸(府外移出ヲ含ム)ノ少額ニ過ギザレバ製造能力ノ三割ニ及バズ、而シテ各營業者ノ作業日數一ケ年ニ就キ平均四ヶ月以内ノ短期間ニ過ギズシテ其窮狀ハ日ニ月ニ加ハラントスルモノアリ。殊ニ吾ガ京都市ニ於テハ昨五年度新規ニ一會社ノ創立ヲ見ルニ伴ヒ業界ハ頓ニ混沌ヲ極メテ甚ダシキ競争濫賣ノ弊ニ陥リ三百ノ仲買業者及其從業員ハ爲ニ死活ヲ制セラレントシ、遂ニハ隨所ニ暴力行爲ノ不祥事ヲ演出シテ警察官憲ヲ煩ハシタルコト一再ニ止マラザリシハ吾等同業者ノ深ク遺憾トスル所ニシテ前途甚ダ憂慮ニ堪ヘザルモノアリタリ。

茲ニ於テ吾等製氷業者ハ昨年八月協定ヲ遂ゲ京都氷業藏元組合ヲ組織スルト共ニ共同販賣所ヲ設ケ一方ニハ全市仲買業者ノ團結ナリテ京都凍氷商聯合組合ノ設立ヲ見ルニ至リシ等ハ要スルニ價格ノ均勢ト需給ノ調節ヲ計リ以テ業界ヲ統制シテ堅實ナル發展ヲ遂ゲ吾等ノ重大ナル使命ヲ遂行セムトスルニ外ナラザルナリ、然ルニ頃者頻々トシテ新規同業ノ計劃ヲ耳ニスルハ結局共倒レノ愚舉ヲ策スルニ等シキモノト謂ヒ得ベク知事閣下ノ御明察モ亦恐ラクハ茲ニアルベキヲ信ズルモノナリ。

更ニ思フニ之等新規計劃ノ誘因ハ一ニシテ足ラザルベキモ主トシテ業者ノ協定趣旨ヲ曲解スルモノ或ハ中央市場製氷冷蔵ガ比較的廉價提供ヲ爲シ得ルハ民業ニ比シ最モ有利ナル立場ニアルニ依ルコトヲ究メズ、漫然トシテ其廉價ヲ採算ノ基礎トセル一部人士ノ杜撰ナル巧言ニ惑ハサル、結果ナルベキハ蓋シ衆目ノ觀ルトコロニシテ其境地寧ロ同情スベキモノアリ、吾等同業者ハ其使命ノ重大ナルヲ自覺シ甚シキ困憊ニ堪ヘテ専ラ經營ニ從フモノナリト雖モ前陳ノ如ク無謀ナル新規計劃者ノ續出ニ累セラレテ再ビ前年ノ轍ヲ履ムニ至ラバ勢ヒ共ニ自滅ヲ免ガレザルニ至ルベキヤラ虞ル、モノナリ。而シテ既設業者ノ

自滅ガ如何ニ産業經濟ト保健衛生ニ惡影響ヲ及ボスベキカハ殊更ニ縷陳ヲ要セズシテ明カナルベク吾等ノ使命茲ニ到リテ益々重大ナルヲ感ゼザルヲ得ズ、閣下ハ夙ニ産業ノ合理化ニ銳意ヲ注ガレ指導獎勵至ラザルナキヲ幸トシ敢テ茲ニ吾等同業者ノ狀勢ト苦衷ヲ懇ヘ特ニ閣下ノ御考慮ヲ仰ガントスル所以ノモノハ要スルニ既設ノ製氷冷蔵業者ノ窮狀救済ト二重資本投下防遏ノ爲府下ニ於ケル同業者ノ既設工場ノ生産能力ガ一ケ年ノ中十ヶ月間有效ニ作業シ得ラルベキ程度ニ達スルマデ製氷及冷蔵工場ノ新設ニ對シ此際適當ニ抑制セラレントヲ懇望激切ノ至リニ堪ヘズ。

茲ニ謹ンテ京都氷業藏元組合員代表者連署ヲ以テ右陳情ノ趣旨御採納ノ上特ニ御詮議ヲ蒙リ度此段奉願候也。

昭和六年五月十日

京都市下京區御幸町通四條下ル大壽町三九四 京都氷業藏元組合

大日本製氷株式會社 取締役副社長 山田 啓之助

富士製氷株式會社 取締役社長 淺井 伊兵衛

(以下省略)

京都府知事 佐上 信一 殿

一四、京都氷業藏元組合ガ府商工課長ヘ提出

セル製氷業ニ關スル陳情書寫

製氷業ニ關スル陳情書

曩ニ本年五月十日我等京都市製氷業者一同ハ佐上前知事閣下ニ別紙寫ノ如キ陳情ヲ爲シタル處幸ニ閣下ノ容レラル、所トナリシカ本年新規製氷出願者ニシテ認可セラレタルハ某氏企畫ニ係ルモノ一、ニ止マリタルヲ以テ諸種ノ經緯事情ニ鑑ミ某氏ニ相當報償金ヲ交附シ同氏ノ製氷ヲ明七年六月迄休止セシメ市場紊亂ヲ阻止シタルモ尙中央市場小賣氷及大阪等ヨリ移入濫買スルモノ等ニ惱マサレ且ツ天候不良財界不振ノ影響ヲ蒙リ困難ナル營業ヲ繼續致シ候。

然ルニ現在某氏ノ認可濟未設十五噸存スルノミナラズ未許可出願者ノ認可促進運動各方面ニ熾烈ヲ加フルヤニ聞知シ苦慮致シ居ルモノニ有之候。

顯ミテ我同業界ノ情勢ヲ按ズルニ全國同業者ハ孰レモ積年不況ニ沈淪シ疲弊困憊ヲ極メ營ニ營業ノ目的ヲ達シ得ザルノミナラズ現狀ノ儘推移センカ大方壞滅ニ瀕スルモ蓋シ遠キニ非ザルベシト憂慮セララル、モノニ有之候。

斯クテ同業者悲痛ノ叫ハ遂ニ去ル十月二十二日奈良市ニ於ケル全國製氷業者大會トナリ滿場一致ヲ以テ別紙ノ如キ決議ヲナスニ至リ候。

却説願リテ本業類廢ノ主因タル生産過剩ノ經過ヲ稽フルニ本業ノ眞意義ヲ究メズ業者協定ノ間隙ニ乘ジ一部策士ノ宣傳教唆ニヨリ漫然企業スルモノ多キ模様ニテ既設業者ノ協調ハ是ガ爲メ災セラレ常ニ不安定ニシテ斯業ノ穩健ナル發達ヲ期スルコト到底至難ノ業ニ屬シ候。

而シテ低溫工業殊ニ我ガ製氷業ガ國家ノ食糧政策ニ如何ニ緊密ノ關係ヲ有シ國民ノ保健衛生上缺クベカラザルモノナルヤハ貴官ノ夙ニ熟知セラル、所ニシテ國家ノ食糧政策ニ重大ナル使命ヲ帶ブル各種産業ハ國家ノ保護ヲ受クル事多キニ拘ラズ獨リ製氷業ノ顧ミラザルハ甚ダ遺憾トスル所ニ有之候。

私共ハ既設業者トシテ利益ヲ蠲斷シ單ニ自家保護ノ爲メ陳情請願スルノ意ニハ無之實ニ是ノ重大使命ヲ有スル産業ノ發達ニ關シ適當ナル保護教導ヲ冀フモノニ有之候。

幸ニ製氷業ニ對スル認可權ハ府縣長官ニ存スルモノナレバ事情御憐察被成下貴官ヨリ知事閣下ニ御上申ノ上我同業者大會決議第四項即チ當府下ニ於ケル如キ生産過剩地方ニ於テ新規出願者ニ對シ需要ノ關係ヲ御考慮ノ上當分御許可無之様御取計願度候。

尙京都府下一圓ノ同業者多數ハ不日製氷ヲ工業組合法第一條ノ重要工產品ニ指定相成度件及工業組合認可等ノ請願上申ヲ可致努力中ニテ一層ノ御教導ヲ奉仰度候間何分事情御詮議ノ上御同情御配慮ヲ奉冀次第ニ有之茲ニ京都氷業藏元組合ノ決議ヲ以テ陳情書寫及同業者大會決議寫相添ヘ右事情具陳陳情候也。

昭和六年十一月 日

京都市下京區御幸町通四條下ル大壽町

京都氷業藏元組合

理事長 福地久吉
副理事長 島谷憲造

一五、京都府下製氷業者ノ重要工産品指定ニ 關シ商工大臣へ提出セル請願書ノ寫

重要工産品中ニ製氷ヲ加ハラレタキ請願

製氷及冷蔵事業ノ國家食糧政策ニ緊密ナル關係ヲ有シ國民ノ保健衛生上頗ル重要ナル使命ヲ帶ビ所謂公益産業ニ屬スルモノナルハ蓋シ彼ノ中央市場ニ於ケル此設備ガ其生命線タルニ徴スルモ明カニシテ茲ニ贅言ヲ要セザル所ニ有之候而シテ電氣瓦斯ノ類ニ至リテハ公益事業トシテ夫々獨立法規ノ下ニ保護セラル、アリ又他面社會事業トシテハ都市失業者ノ救済及農山漁村ノ振興救済等ニ國家ガ絶大ノ努力ヲ拂ハル、ハ孰レモ適當ノ措置トシテ國民ガ滿腔ノ感謝ヲ表スルモノニ有之候

然ルニ驟リテ我製氷業界ヲ顧ルニ全國三百ノ同業者ハ一千ニ近キ工場及營業所ヲ有シ壹億五千萬圓ニ垂ントスル巨資ヲ投ジ幾多ノ従業員ト拾數萬人ノ仲買從業者ヲ抱擁シ夙夜其重大使命ニ精進スト雖打テ續ケル不況ノ爲疲弊困憊ノ極相共ニ殆頻死ノ巷ヲ彷徨シ此儘ニシテ推移センカ方ニ大半壞滅ニ陥ルベシト稱スルモ敢テ過言ニ非ズト信ズルモノニ有之候

サレバ我等ハ公益産業ノ振興ヨリスルモ將又倒産失業ノ豫防ヨリスルモ斷然コノ難局ヲ打開シ天與ノ

重大使命達成ニ邁進致ス可キノ急務ヲ痛感シ懸命渾身ノ精力ヲ傾注スルモ悲哉本業ニハ寧ロ時弊ヲ助長ス可キ企業獎勵法存スレドモ起業後ノ保護法更ニ無之多年渴仰ノ重要産業統制法ハ暫ク之ヲ擱キ尙工業組合法ニモ均霑シ得ザル爲メ澎湃タル生産ノ過剩ト尙益々續出スル新規企業者トニ惱マサレ常ニ庶幾目的ノ一半ヲダニ達シ得ザル窮狀ニ呻吟致シ居ルモノニ有之候

即チ之ヲ救フノ捷徑他無シ唯速ニ大臣閣下ノ御同情ト御明鑑トヲ仰ギ本業ヲ特ニ工業組合法第壹條ノ重要工産品中ニ御指定御救済相成ル様懇望激切ノ至リニ堪エズ左ニ事情ヲ具陳シ京都府下製氷業者有志一同連署ヲ以テ此段奉請願候也

事 由

一、重大使命ヲ帶ブル製氷業ノ閉却ニ就テ

低溫工業殊ニ製氷ノ國家食糧政策ニ無限ノ價值關係ヲ有スルハ既ニ中央市場ニ關シテ陳述セル如ク實ニ水産魚介ヲ主要榮養食糧品トスル我國ノ水産業ノ發達ガ之ニ負フ所ノ甚大ナル又文化生活上冷熱必需品トシテ缺クベカラザルモノナルハ近時漸ク朝野一部ノ識者ニ認めラル、所トナレルモ未ダ製氷ヲ單ニ昔日ノ如ク醫療及夏季清涼飲料ニ供スルヲ主目的トスル如ク解シ其重要性ヲ認識セザルノ人士尠ナカラズ

又現ニ内務省氷雪取締規則ノ如キモ四拾數年前ノ蒸溜水ヲ使用シテ製氷スル全國百噸ニ滿タザル元始創業時代ノ制定ニ拘ルモノナルニ日産一萬四千噸ヲ算スル今日ノ本業ニ其儘適用セラレ「クローラ」含有量ノ制限等實際ニ即セザルモノ、改正ヲ陳情スルモ敢テ願ミラル、コトナシ爲メニ往々衛生監督官

吏ノ無理解等ニヨリ甚敷迫害ニ會シ巨資ヲ投ゼルコノ國家的重要産業ガ屢其基礎ヲ脅威セラレ、事アルハ我人共ニ受難經驗スル所ニシテ未ダ下一一般ヨリ本業重要性ノ認識セラレザル事ノ多キハ寔ニ遺憾トスルモノナリ

二、生産ノ過剰ト營業ノ現況ニ就テ

最近ノ調査ニ依レバ我國ノ製氷年産能力四百五十萬噸ヲ超ユルモ實際販賣量ハ百九拾萬噸ニ達セズ其大半ハ生産過剰ニシテ一部漁業地ヲ除ク外ハ一ケ年ノ作業日數僅カ四ケ月ニ滿タザル悲況ニアリ我京都府ニ就キテ見ルモ合計年産能力十四萬五千噸販賣量四萬貳千噸ニシテ全國重要都市ノ同業者皆此ノ類ナリ

而シテ本業ノ特質上純然タル國內商品ナレバ過剰品ノ販路ヲ海外ニ求ムル能ハズ國內市場ニ於テハ年々猛烈ナル投資行ハルヲ以テ常ニ採算ハ無視セラレ業績遞次惡化ス而モ普通ノ營業狀態ニアリテモ尙且ツ一ケ年ノ賣上金額ガ投下資本ノ三分ノ一ニ達スルコト困難ナルヲ以テ製造營業費等ヲ控除セバ得ル所少ナキノミナラズ缺損ヲ免レザルモノ甚ダ夥シトセズ

茲ニ於テ各地方民間同業者ハ鳩首協議ヲ遂グ共倒レ自滅ヲ防グ爲メ任意組合ノ組織ヲ敢行シ僅ニ小康ヲ得ントスレバ忽チ其間隙ニ乘ジ不良仲買業者跳梁シ隣接地方ヨリ製氷ヲ移入濫賣シテ市場ノ攪亂ヲ企テ又策士或ハ機械屋等ノ教唆宣傳ニ惑ハサレ採算ノ基礎及本業ノ眞意義ヲ究メザル漫然企業家ノ出現スルアリ甚敷ニ至リテハ起業認可ヲ得陰ニ陽ニ既設業者ヲ脅威シ權利ヲ賣ラントスル所謂利權屋ノ現ル、アリテ其ノ底止スル所ヲ知ラズ而カモ是等ノ徒ハ常ニ誇大ノ宣傳ヲ爲スヲ以テ市場爲ニ動搖シ

其防止ニ苦シムモノナリ

是企業形態ガ比較的簡易ニシテ小資本起業可能ナル故ナルベク既ニ京都市及其附近ニ於テモ認可済ニシテ未設工事ノ二分ノ一ヲ存スル本年ノ新規起業者一、出願中ニシテ未許可ノモノ二、其他現在計畫中ノモノ若干アルヲ聞クノ狀態ナリ

又業界一般ヲ通覽スルニ無理ナル徑路ヲ辿リ創設シタルモノ往々存シ資金窮迫ノ爲メ屢濫賣ヲナスモノアリ

斯クテ同業者ノ協調常ニ不安定ナルヲ以テ需用者モ遂ニ製氷營業者ヲ輕視シテ正當ナル支拂ヲナスモノ少ナキニ至リ且ツ仲買營業者間ニハ暴力行爲ノ不祥事隨所ニ頻發シ憂慮ニ堪エザルモノアルニ更ニ困難ヲ感ズルハ京都市ノ如ク中央市場ニ於ケル僅少ナル過剰製氷ヲ市内各公設小賣市場内ニテ安賣セシメ民業ヲ牽制壓迫シテ社會政策ノ一端ト解シ能吏ノ職分ト心得ルモノアリ其對策ニ窮スルモノナリ

彼此相俟チテ我等民間營業者ハ塗炭ノ苦ヲ嘗メツ、アル現狀ナルヲ以テ設備ノ改善等望ムベクモ非ズ時ニ不慮ノ椿事ヲ招來スルアリ今ヤ業者ハ其暗黒時代ニ直面シ皆其氣趨ニ迷ヒ僅カニ生ノ餘喘ヲ保ツノ窮狀ニアリ

三、結 論

氷價ノ變遷ヲ見ルニ普通ノ營業狀態ニアル地方ニ於テモ尙十年前ノ半額以下ニシテ一般物價ノ低落率ニ劣ラズ競争濫賣地域ニ於テハ屢無代價ニ等シキ慘狀ヲ呈シ總體歐米ノ本業先進國ニ比シ著敷値段ノ

差違アルヲ認メズ

而シテ又其消費量ヲ檢スルニ北米人ノ一ケ年一人當八十貫強ニ對比スレバ我國ノ八貫強ハ僅少ノ嫌無キニアラズト雖風土習慣ノ關係アルヲ以テ須ク漸ヲ追ヒ需用ヲ増進セシムベキモノニシテ既ニ北海道ヨリ臺灣ニ至ル迄全國主要地ニ其設備ヲ見ザルナキ今日ニ於テハ生産過剰ニシテ最早特殊ノ地域ヲ除キ一般ニ當分新設又ハ擴張ノ要ヲ認メザルノミナラズ自然一ケ年四ヶ月以内ニ操短作業ヲ爲スノ餘儀ナキ悲況ニ沈淪セルモノナリ

叙上ノ如ク本邦製氷業ハ今ヤ全ク頓挫蹉跎シ行詰リノ窮狀裡ニアリ此際適當ナル方策ヲ講ズルニ非ズンバ其發達ヲ望ミ得ザルハ固ヨリ却ツテ自他共ニ覆滅ヲ免レザルベク副業トスル冷蔵保管事業モ亦同様ノ運命ニ陥ルヤ必セリ

茲ニ於テ業者一般悲痛ノ決心ヲ持シ夫々各地方毎ニ協調結束ヲ圖リ又本年十月奈良市ニ於ケル全國製氷業者ノ大會ニ際シテハ遠近各地ヨリ馳セ參ズル代表者二百餘名ニ達シ孰レモ眞劍ニ其悲慘ノ狀ヲ訴ヘ共ニ業界ノ改善ニ協力奮闘スベキヲ約シタリ

然レドモ前述ノ如ク民間ノ一時的任意結合ハ聚散常ナキノミナラズ絶對的統制々裁力ヲ有セザルヲ以テ到底此ノ重大危機ヲ救フ能ハズ一ニ政府ノ適當ナル保護獎勵ヲ待ツヨリ外ナク我等ノ萬策殆盡キントスルモノナリ

幸ニ政府ガ國內産業ノ統制合理化及保護獎勵ノ爲メ重要産業統制法及工業組合法ノ制定セラレタルヲ知リ茲ニ多年ノ宿願饒望達セラル、日ノ近キヲ覺エ欣躍シテ先ヅ製氷工業組合ノ組織ニ猛進セントス

ルモノナレバ速ニ其重要工産品中ニ指定セラレン事ヲ希フモノナリ

若シ我等ノ願望叶ヒ製氷工業組合ヲ設立スルヲ得ナバ益々本業ノ改善ヲ計ルト共ニ用途ニ依ル販賣價格ノ公正ナル協議ヲ遂ゲ以テ需給兩者ノ便宜ヲ圖リ斯業ノ穩健ナル發達ヲ期シ國民經濟ノ福利ヲ増進センコトヲ冀フモノナリ庶幾ハ業者ノ窮狀危機ヲ御洞察ノ上御明鑑ヲ垂レサセ速ニ請願ノ趣旨ヲ御採擇アラントコトヲ

昭和六年十二月 日

商工大臣 櫻内幸雄殿

京都府製氷業者有志

連名省略

一六、京都府下製氷業者ノ府知事へ提出

セル請願書進達願ノ寫

製氷ヲ工業組合法第一條第二項ノ重要工産品トシテ指定品目ニ加ヘラレ度茲ニ商工大臣へ請願仕リ度ニ就テハ願意ハ請願理由ニ詳述致シ候得共尙特ニ御清鑑ヲ得度キハ

第一本品ノ特性上名稱等級ノ無之モノナルニ生産過剰ヲ顧ミズ新增設起業者續出シ既設業者ヲ脅威スル爲メト又他地方ヨリ製氷ヲ移入濫賣スル者有之タメ初夏ニ至ル迄市價ヲ非常ニ攪亂セラル、ヲ常トスルヲ以テ自然既設業者ハ其損害恢復ノ自衛上盛夏最大需要期ニ際シ値段ヲ暴騰セシムルノ餘儀無キニ至ル習慣有之候

斯クテハ一般需要者ニモ迷惑ヲ與フルノミナラズ本業ノ穩健ナル發達ヲ阻害スル結果トモ相成リ申スベク甚ダ遺憾トスルモノ有之候

第二、都市ニ於ケル本品ノ大量需要期間ハ夏期短時日ナル爲一旦業者ノ協調紊レンカ獨リ製氷業者ノ困惑ノミナラズ仲買業者ノ營業困難モ亦一層甚敷モノ有之其從業員間ニハ得意先爭奪其他ノ爲メ暴力行爲頻發シ流血ノ慘ヲ見ル等アリ多クハ表沙汰トセズ内濟トスル模様ナルモ警察官憲ヲ煩スモノモ尠ナカラズ甚ダ憂慮ニ堪ヘザルモノ有之候
是等ノ事情モ特ニ御副申ヲ加ヘラレ御進達被成下度此段奉願上候也

昭和六年十二月十日

京都市左京區岡崎圓勝寺町百四拾番地

大日本製氷株式會社京都出張所

請願人代表者

取締役兼所長 福地 久吉

京都市中京區壬生松原町六拾二番地・六拾三番地

富士製氷株式會社

右同

取締役社長 淺井 伊兵衛

京都府知事 黑崎眞也殿

一七、宮城縣製氷業組合規約寫

第一章 總則

第一條 本組合ヲ宮城縣製氷業組合ト稱ス

第二條 本組合ハ宮城縣内ニ於テ製氷業ヲ營ム者ヲ以テ組織ス

第三條 組合ノ區域ハ宮城縣内一圓トス

第四條 本組合ノ事務所ハ

番地ニ置ク

第二章 目的及事業ノ方法

第五條 本組合ハ組合員ノ親睦ヲ厚フシ且ツ技術及經營上ノ改善發達ヲ圖ルト共ニ營業上ノ弊害ヲ矯正シ相互ノ福利ヲ増進スルヲ目的トス

第六條 本組合ノ業務左ノ如シ

一、生産統制 二、製品價格協定 三、製品販賣ノ斡旋 四、同業者紛議ノ調停

五、業務上ニ關シ官公署ニ對シ建議又ハ意見ノ開陳ヲ爲スコト

六、從業者ニ對シ講習講話會等ヲ開催シ斯業ニ關スル知識ヲ涵養スルコト

七、技術上及經營ニ關シ調査研究ヲ爲スコト 八、其ノ他總會ニ於テ必要ト認メタル施設

第七條 本組合ノ事務所ニハ左ノ看板ヲ掲ク

(省畧)

第八條 本組合ニ於テ使用スル印章左ノ如シ

(省畧)

第三章 役員ノ選舉及權限

第九條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長一名、副組合長一名、評議員十名以内、顧問若干名、相談役若干名、

組合長、副組合長、評議員ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ顧問相談役ハ役員會ノ決議ニ依リ組合長之ヲ推薦ス

但シ組合長ハ組合員外ヨリ選舉スル事ヲ得

役員ノ選舉ハ無記名投票ニ依リ投票數ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス投票同數ナルトキハ年長者ヲ採リ同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ役員ハ總會ノ決議ニ依リ指名選舉ニ依ルコトヲ得

役員ノ選任又ハ解任若ハ辭任アリタルトキハ其ノ都度主務官廳ニ届出ツルモノトス

第十條 組合長ハ組合ヲ統轄ス

副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ之ヲ代理ス評議員ハ組合長ノ諮問ニ應シ又業務執行ノ狀況ヲ監督ス組合長副組合長共ニ事故アルトキハ年長評議員之ヲ代理シ年齢ニ依リ難キトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 本組合役員ノ任期ハ二ケ年トス但シ再選ヲ妨ケス

補缺選舉ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任スルマテ其ノ職務ヲ執行スルモノトス

第十二條 役員ハ總會ノ決議ニ依リ解任スルコトヲ得但組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ直チニ補缺選舉ヲ行フヘシ

第十三條 組合員ハ正當ノ事由ナクシテ役員ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十四條 役員ハ名譽職トス但シ總會ノ決議ニヨリ報酬ヲ給スルコトヲ得

第四章 會 議

第十五條 會議ハ通常總會臨時總會評議員會ノ三種トス

第十六條 通常總會ハ毎年一回四月之ヲ開ク

第十七條 臨時總會ハ左ノ場合之ヲ開ク

一、組合長ノ必要ト認メタルトキ

二、組合員定數ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及其理由ヲ示シテ總會ノ招集ヲ請求シタルトキ

第十八條 評議員會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一、組合長ノ必要ト認メタルトキ

二、評議員三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項及其ノ理由ヲ示シテ開會ヲ請求シタルトキ

三、總會ニ提出スル議案ヲ審議スルトキ

四、組合財産及業務ノ狀況ヲ監査スルトキ

五、組合長ノ諮問ニ應フルトキ

第十九條 第十七條第二號及前條第二號ノ場合ハ組合長ハ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ總會

若ハ評議員會ヲ招集スヘシ

第二十條 會議ノ招集ハ組合長ヨリ五日前ニ書面ヲ以テ通知スヘシ但シ緊急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニア

ラス組合員ハ自ラ出席スルコト能ハサルトキハ他ノ組合員ニ委任シテ議決權ヲ行フコトヲ得

第二十一條 總會ニアリテハ組合員評議員會ニアリテハ評議員定數ノ半數以上出席スルニアラサレハ開

會スルコトヲ得ス

三八

同事項ニ付再度招集シタル總會及評議員會ニアリテハ出席シタル組合員評議員ノ過半数ヲ以テ議決ス
第二十二條 會議ノ議決ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外出席員數ノ過半数ニ依ル可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十三條 會議ノ議長ハ組合長之ニ當ル組合長事故アルトキハ副組合長之ヲ代理シ組合長副組合長共ニ事故アルトキハ年長評議員之ヲ代理ス

第二十四條 組合長副組合長及評議員ハ業務成績及經費決算報告ノ認定其ノ他自ラ執行シタル事項ノ認定ノ場合ニ於テハ議長ノ職務ヲ行フコトヲ得ス
前項ノ場合ハ年長組合員議長ヲ代理ス

第二十五條 總會及評議員會ノ議長ハ決議録ヲ作り左ノ事項ヲ記載シ議長及ヒ出席組合員二名以上記名捺印ス

一、開會ノ日時及場所 二、評議員ノ定數又ハ總組合員ノ數 三、出席者ノ員數

四、議事ノ要項 五、決議シタル事項 六、賛否ノ數

第二十六條 會議ノ際ハ建議案ヲ提出スルコトヲ得

第五章 加入 脱退

第二十七條 本組合地區内ノ同業者ニシテ新ニ本組合ニ加入セムトスルモノハ其ノ住所及氏名ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨ヲ組合長ニ申出ツヘシ

組合長ハ前項ノ申出アルトキハ組合員名簿ニ其ノ住所氏名及加入年月日ヲ記載スヘシ

第二十八條 本組合員ニシテ營業所ヲ地區外ニ移轉シ又ハ業務ヲ廢止シタル爲組合ヲ脱退シタルトキハ

其ノ旨ヲ記載シ組合長ニ届出ツヘシ

第二十九條 業務ヲ繼承シタル者若ハ氏名住所等ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク書面ヲ以テ其ノ旨届出ツヘシ

第六章 組合員ノ權利及義務

第三十條 本組合員ハ故ナクシテ組合長ノ招集ニ不參スルコトヲ得ス

第三十一條 組合員ハ總會ニ出席シテ表決ヲナス權利ヲ有ス

第三十二條 組合員ハ平素言行ヲ謹ミ規約ニ違反シ或ハ組合ノ信用ヲ毀損スルノ行爲ヲナスヘカラス

第三十三條 組合員ハ規約其ノ他總會及評議員會ノ決議ヲ遵守シ組合經費ヲ負擔スルモノトス

第七章 會計

第三十四條 本組合ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十五條 本組合ノ經費豫算及賦課徵收方法ハ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十六條 本組合ノ經費決算並業務成績ハ評議員會ノ承認ヲ得テ組合員ニ通知ス

經費豫算及賦課徵收方法並決算業務成績等ハ夫々主務官廳ニ届出ツルモノトス

第三十七條 組合費ハ總會ノ決議ヲ經テ組合長名義ヲ以テ銀行預金若ハ郵便貯金トシテ之ヲ管理スルモノトス

三九

第三十八條 廢業轉住其ノ他ノ事由ニヨリ組合ヲ脫退シタル場合ト雖財產ノ分割及既納ノ組合費ハ之ヲ返戻セサルモノトス

第八章 賞與及違約處分

第三十九條 組合員中職務ニ忠實ニシテ且ツ組合ニ功勞アルモノハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ賞與スルコトアルヘシ

第四十條 本組合員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリタルトキハ總會ノ決議ニヨリ金壹百圓以内ノ違約金ヲ徵收ス

一、規約並總會ノ決議ニ違反シタルトキ 二、本組合事業執行上ニ妨害セムトスル行爲アリタルトキ 三、法令規則ニ違反シ若ハ組合員ノ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキ

第四十一條 第四十條ノ規定ニ依リ違約金ノ徵收二回以上ニ及フトキハ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第四十二條 違約處分ヲナシタルトキハ其ノ氏名及事由ヲ組合員ニ通知スルモノトス

第九章 雜 則

第四十三條 組合ヲ解散セムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四十四條 組合任意解散若ハ組合解散ノ處分ヲ受ケタルトキハ組合總會ニ於テ五名ノ清算人ヲ選定ス

第四十五條 組合財產ヲ以テ債務ノ完済ニ不足ヲ生シタルトキハ之ヲ組合員ニ分配ス

第四十六條 前條ノ負擔額並分配方法ハ解散當時ノ組合員ノ半數以上ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス

第四十七條 本組合ノ規約ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十八條 本組合員ニシテ災害ニ罹リタル者アルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ相當ノ援助救恤ヲナスコトアルヘシ

附 則

第四十九條 本組合ニ左ノ帳簿ヲ備付ケ組合長之ヲ管理ス

一、組合規約

二、決議錄

三、組合員名簿

四、金錢出納簿

五、貯金通帳 六、書記ハ有給トス

第五十條 本組合設立當時ノ役員ハ第一回通常總會ニ於テ選舉ス

昭和六年八月

一八、帝都製氷組合同規約寫

第一條 本組合ハ帝都製氷組合同稱ス

第二條 本組合ハ東京府下並ニ隣接地ニ於ケル製氷業者ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 本組合ハ組合員ノ生産販賣ニ關シ需要ノ喚起需給ノ合理化ヲ期スル爲メ組合員ノ製氷全部ヲ共同販賣スルコトヲ目的トス

第二條ノ區域内ニ於ケル組合員ノ製造スル氷ハ全部本組合ノ所有トシ前金ヲ以テ販賣スルモノトス

第四條 本組合事務所ハ中央便宜ノ場所ニ置ク

第五條 製氷販賣所ハ便宜ノ場所ニ數ヶ所設置シ製氷ノ受渡シハ各組合員ノ現在營業所ヲ使用スルモノトス

第六條 前金販賣並ニ製氷受渡シニハ總テ本組合ノ指定シタル事務員之ニ從事スルモノトス
但前金販賣ノ方法ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第七條 本組合員ノ氷製造期間ハ四月ヨリ九月迄ノ六ヶ月間トス

第八條 組合員ノ氷製造及貯藏並ニ製造ノ休止又ハ制限ハ本組合ノ指圖ニ從フモノトス
組合員ハ製氷期間内ニ於テハ製氷ノ休止ヲナスコトヲ得ス

製氷期間内ニ需給調節上休止ヲ指定シタル時ハ其指定サレタル組合員ニ對シ壹噸一日金五圓五拾錢ノ割合ヲ以テ休止日數ヲ計算シ其月ノ分配金ヨリ控除スルモノトス

機械ノ故障其他ノ事由ニヨリ製造不能トナリタルトキハ日割ヲ以テ基本噸數ニ據ル計算金ヲ減額スルモノトス

第九條 製氷期間外ニ於テ本組合ヨリ製造ヲ指定サレタル組合員ノ製氷ハ製造休止ノ各受渡所ニ配給スルモノトス

但配給ニ要スル運搬費ハ本組合ノ負擔トス

第十條 組合員ノ基本噸數ハ左ノ各號ヲ調査審議ノ上決定スルモノトス

一、製氷機械ノ能力、アンモニア壓縮機及アンモニアコンデンサー、電動機

二、製氷槽内ニ設備セル氷罐ノ數

三、從來ノ製氷實際高

四、貯氷庫ノ設備

但シ貯氷庫ノ設備ニ對スル換算基本噸數ハ機械基本噸數ヨリ分離シテ計算スルモノトス

第十一條 組合員ノ製氷費及運搬費ハ左ノ通り定ム

一、製氷期間外 入札又ハ協定

二、製氷期間内 無 價

三、運 搬 費 組合ノ指圖ニヨリ製氷ヲ運搬スル場合ハ其費用ハ組合ニテ負擔ス

第十二條 本組合ト組合員間ノ製氷受渡ハ各組合員ノ工場前トス

第十三條 組合員ハ組合ノ査定シタル時期及數量ニ從ヒ貯氷スルモノトス

第十四條 完全冷蔵貯氷ガ全部出庫シタル時溶解量壹割以上ノ超過量ハ其組合員ノ負擔トス

第十五條 各組合員ハ本組合ノ指定シタル數量ノ製造ヲナスモノトス

但製氷基本噸數ニ對シ日產實量ガ五分以上増減シタル場合ニハ其數量ニ應シ組合ニ於テ其年度當初ヨリノ基本噸數ヲ變更スルモノトス

第十六條 本組合ノ製氷販賣價格ハ組合ニ於テ之ヲ決定スルモノトス

第十七條 本組合ノ決算期ハ毎年九月三十日トス

第十八條 本組合ノ賣上代金總額ノ十分ノ七以上ヲ毎十日目ニ各組合員ノ基本噸數ニ對シ別表ニヨリ分配スルモノトス

但季節ニヨリ其期日ヲ變更スルコトアルヘシ

第十九條 本組合賣上代金總額ニ對スル百分ノ三以内ヲ積立金トス

但シ積立金ハ取引銀行ニ預金トシテ積立ツルモノトス

第二十條 本組合決算期ニ於テ賣上代金ノ内ヨリ諸經費及前條ノ積立金ヲ控除シタル殘額ヲ各組合員ノ基本噸數ニ對シ別表ニヨリ分配スルモノトス

第二十一條 組合員ハ本組合設立ノ精神ヲ尊重シ本組合存續中ハ如何ナル事情アルモ東京府下及隣接組合區域内ニ於テ左記各號ノ行爲ハ一切之ヲ嚴禁スルモノトス

一、製氷工場ノ新設増設又ハ製氷機ノ増設

但アンモニア壓縮機及同上用動力機ノ増設ヲ除キタル他ノ設備ノ改良又ハ原動機ノ種類變更等ヲ爲スモノハ此ノ限リニアラス

此場合ハ組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

二、販賣所ノ新設

三、本組合員外ノ製氷事業計畫ニ參加又ハ出資

四、直接間接ヲ問ハス組合員外ノ氷購入及委託販賣

五、組合員自己ノ製氷ト雖モ區域外ヨリノ移入

第二十二條 本組合ニ左ノ役員ヲ置キ其任期ヲ壹ケ年トシ再選スルコトヲ得

一、理事 十一名以内

二、監事 四名以内

三、評議員 若干名

本組合總基本噸數ノ參分ノ壹以上ヲ有スル組合員ハ理事或名ヲ出スコトヲ得

第二十三條 本組合ノ理事ハ業務ノ執行ヲ爲スモノトス

第二十四條 理事ハ其互選ヲ以テ理事長壹名ヲ定ム

理事長ハ本組合ヲ代表ス

第二十五條 理事ハ理事會ノ決議ヲ以テ左記各號ノ事項ヲ處理スルモノトス

一、本組合業務規程ノ設定

二、本組合事務規程ノ設定

三、本組合同規約實施ニ必要ナル諸種ノ規程設定

四、業務上其他緊急ヲ要スル場合ノ臨機ノ處置

第二十六條 監事ハ本組合ノ業務及會計ヲ監査シ且決算書並ニ割賦金分配案ヲ檢査スルモノトス

第二十七條 評議員ハ本組合ノ重要事項ヲ評議シ各製氷販賣所及製氷受渡所ヲ巡視シ製氷貯藏並ニ販賣

ノ實況ヲ調査ノ上其都度理事長ニ報告スルモノトス

四六

第二十八條 理事及監事ハ評議員會ニ出席シ表決ニ參加スルモノトス

第二十九條 本組合ニ審査委員若干名ヲ常置シ組合規約違反ノ審査ニ當ラシムルモノトス

審査委員ノ員數審査委員會ノ組織權限ニ關シテハ總會ノ決議ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第三十條 本組合ノ定時總會ハ毎年十月之ヲ開會シ營業報告並ニ收支決算報告ヲ爲シ割賦金分配案ヲ決議スルモノトス

第三十一條 臨時總會ハ理事會ニ於テ必要アリタルトキ又ハ評議員若クハ組合員ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ以テ請求アリタルトキ之ヲ開會スルモノトス

第三十二條 役員ノ選舉組合規約ノ加除修正ハ總會ノ決議ヲ以テス

第三十三條 本組合會議ノ決議方法ハ左ノ各號ニ據ル可否同數ナルトキハ議長之ヲ定ム

一、理事會 八名以上ノ出席ヲ要シ其過半數ノ同意

二、評議員會 三分ノ二以上ノ出席ヲ要シ其過半數ノ同意

三、總會 三分ノ二以上ノ出席ヲ要シ其四分ノ三以上ノ同意

但組合員事故アルトキハ他ノ組合員ニ委任スルコトヲ得

第三十四條 會議ノ議長ハ理事長之ニ當ル理事長事故アルトキハ理事會内ヨリ代理者ヲ定ム

第三十五條 仲買人ノ一般販賣値段ハ本組合ヨリ公表スルモノトス

第三十六條 本組合ニ新ニ加盟セントスル者ハ理事會ノ承認ヲ經テ加盟金トシテ製氷能力壹噸ニ付金貳

百圓也ヲ納ムルモノトス但加盟金ハ積立金ニ繰入ルルモノトス

第三十七條 本組合ニ加盟セサル同業者ニシテ本組合ノ安寧秩序ヲ紊ス如キ行爲アルトキハ本組合員ハ協力一致之ニ當リ其方法ハ總會ノ決議ヲ以テ定ム但シ急ヲ要スル場合ハ理事會ノ決議ヲ以テ之ヲ實行シ追而總會ニ報告シ其ノ承認ヲ經ルモノトス

第三十八條 本組合規約第三條第二項及第八條並ニ第二十一條第四號第五號ニ違反シタル組合員ニ對シテハ審査委員會ノ決議ニヨリ其認定シタル損害金ヲ本組合ニ賠償セシムルモノトス

前項ノ規定ニヨリ審査委員會ニ於テ賠償ノ決議ヲ受ケタル組合員ハ其決議ノ通知書到達ノ時即時本組合ノ代表者タル理事長ニ對シ損害金ヲ支拂フヘシ但シ理事長ハ便宜其組合員ニ對スル支拂金ヨリ相殺スルコトヲ得

第三十九條 本組合規約第二十一條ノ一號乃至三號ニ違背ノ行爲アリタル組合員ニ對シテハ總會ノ決議ヲ以テ金五萬圓ノ違約金ヲ徵收シ又ハ除名處分ヲ爲スモノトス

但除名ニ關スル決議ハ他ノ組合員ノ一致ヲ要スルモノトス

前項ノ規定ニヨリ組合ニ於テ違約金支拂ノ決議ヲ受ケタル組合員ハ該決議ノ通知書到達ノ時即時本組合代表者タル理事長ニ對シ違約金ヲ支拂フヘシ

但總會ハ組合員ノ違約ノ程度ニヨリ右違約金ヲ金五萬圓以下金五千圓迄ノ範圍内ニ於テ減少スルコトヲ得ルモノトス

第四十條 本組合積立金ハ本組合存續期間滿了ノ際組合員ノ基本噸數ニ對シ分配ス

四七

新加盟者ニ對スル積立金ノ分配ハ其組合員ノ共同計算實行ノ時ヨリ起算スルモノトス
但第四十二條但書ニヨリ繼續シタルトキハ總會ニ於テ處分方法ヲ定ム

第四十一條 本組合存續中自己ノ都合ニヨリ脱退シ若クハ除名サレタル組合員ニ對シテハ積立金ヲ返還セサルモノトス但解散又ハ廢業其他正當ノ事由ニヨリ本組合ノ承認ヲ得テ脱退シタル組合員ニ對シテハ此限リニアラス

第四十二條 本組合ノ存續期間ハ設立ノ日ヨリ滿ケケ年トス
但期間滿了六ヶ月以前ニ於テ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ繼續スルコトヲ得

第四十三條 組合員ハ金錢債務ノ履行ヲ怠リタルトキハ直チニ強制執行ヲ受クヘキコトヲ認諾シタリ
第四十四條 本規約ニ定メナキ事項ハ民法中組合ニ關スル條項ヲ準用スルモノトス
第四十五條 本組合ニ新加盟者アリタル時公正證書ノ作成ハ理事長ニ於テ總組合員ヲ代表シ之ヲ爲ス

以上

昭和六年十一月七日修正

帝都製氷組合

一九、京都水業藏元組合同約寫

第一條 本組合ハ京都水業藏元組合ト稱ス

第二條 本組合ハ京都市及其附近ニ營業所ヲ有スル製氷業者ヲ以テ組織ス

第三條 本組合ハ京都市及其附近ニ於ケル組合員ノ製造販賣ノ合理化ヲ圖リ且ツ可成廉價ニ需要者ニ製氷ヲ供給センガ爲一定ノ區域内ニ於テ製氷ノ共同販賣ヲナスヲ以テ目的トス

第四條 本組合ノ事務所ハ京都市下京區御幸町通り四條下ル大壽町三百九十四番地ニ置ク移轉ノ必要アルトキハ理事會ノ決議ヲ以テ之ヲ行フ

第五條 組合員ノ氏名左ノ如シ
省 略

第六條 本組合ノ製氷共同販賣區域左ノ如シ

京都市其ノ他省略

第七條 本組合ノ共同販賣ハ組合事務所ニ於テ之ヲ行ヒ現金引換氷券販賣ノ方法ニ依ルモノトス

第八條 組合員ハ組合ノ指圖ニ從ヒ各其ノ製氷販賣所ニ於テ氷券ト引換ニ製氷ヲ引渡ス義務ヲ負フ
但シ地方及郡部ニ關スル引換ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

第九條 組合員ハ毎年理事會ニ於テ決議シ通知シタル期間一晝夜ニ付キ左ノ數量ノ製氷ヲ製造シ氷券引換準備ニ供スル義務ヲ負フ

A	x	噸
B	x	噸
C	x	噸
D	x	噸

第十三條ノ製造制限ガ責任噸數以下ニ及ブ時ハ其ノ噸數ヲ以テ責任噸數トス

第十條 前條責任噸數ヲ準備シ得ザル者ニ對シテハ其不足量ニ應ジ仲買渡時價ノ割ヲ以テ計算シタル金額ヲ第二十九條ノ分配金ヨリ控除スルモノトス

第十一條 組合員ハ毎年六月末日迄ニ第九條ノ責任噸數一噸ニ付キ十五噸ノ割合ヲ以テ計算シタル數量ノ完全貯氷ヲ保有シ理事ノ検査ヲ受クルコトヲ要ス

但シ特別ノ事情ニ依リ期日迄ニ貯氷ヲ完了シ能ハザルトキハ理事會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十二條 組合員ニシテ責任貯氷噸數ニ不足アルトキハ隨時協定シタル價格ヲ以テAニ對シ過剩貯氷ノ分譲ヲ求メ得ベクAハ優先シテ之ヲ譲渡スルノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ、但シAニ於テ不可抗力其他過剩貯氷ヲ有セザルトキハ此限リニアラズ

第十三條 理事會ハ組合員ニ對シ一定ノ期間同一率ノ製造制限ヲ爲スコトヲ得其實施方法ハ理事會ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第十四條 毎年七、八、九、三ケ月中第九條ノ責任製造噸數ヲ超過シタル製氷ニ付テハ前條ノ製造制限ナキ場合ニ限リ理事會ノ決議ニヨリ價格ヲ協定シ第二十九條ノ計算外トナシ對價ヲ交付シテ共同販賣ノ目的ニ加フルコトアルベシ

第十五條 組合員ハ第六條ノ區域内ニ於テ製造シタル製氷ヲ各單獨ニ販賣スルコトヲ得ズ

第十六條 組合員ハ第六條ノ區域内ニ於テ製造シタル製氷ヲ其ノ區域外ニ供給シ又ハ區域外ヨリ製凍氷

ヲ購入移入ヲナスコトヲ得ズ但シ理事會ノ承認ヲ得タルトキハ此限リニアラズ

第十七條 組合員ハ爾後理事會ノ承認ヲ經ズシテ合併ヲナシ第六條ノ區域内ニ於ケル營業若クハ營業設備ノ全部又ハ一部ヲ譲渡シ或ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ

第十八條 組合員ハ第六條ノ區域内ニ於テ製氷工場倉庫ノ新設ヲナスコトヲ得ズ但シ理事會ノ承認ヲ經テ單ニ設備ノ改良ヲナスハ此限リニアラズ

第十九條 本組合ハ理事會名ヲ置ク役員ノ任期ハ滿一ケ年トシ滿期再選ヲ妨グズ

第二十條 理事ハ左ノ者ノ中ヨリ組合總會ニ於テ之ヲ選任ス

一、組合員タル個人

二、組合員タル法人ノ取締役又ハ支配人

三、組合員ノ推薦シタル幹部従業員、選任ノ方法ハ組合員中其承諾ナクシテ本人代理人推薦者ノ何レモ役員タルザルモノナキヲ期シ組合員全員ノ協定ニ依ルヲ本則トシ協定調ハザルトキハ組合員名以上ノ同意ヲ以テ定メタル方法ニ依ルモノトス

第二十一條 理事中ヨリ互選ヲ以テ理事長一名副理事長一名常務理事三名ヲ舉グ

第二十二條 理事長ハ組合總會理事會ヲ開閉シ其議長トナリ組合事務ヲ統轄シ外部ニ對シ裁判上裁判外ニ於テ本組合ヲ代表ス

理事長事故アルトキハ副理事長前項ノ權限ヲ有ス

副理事長常務理事ハ理事長ノ指揮ヲ受ケ日常ノ事務ヲ處理ス

第二十三條 理事ハ無報酬トス但シ理事會ノ決議ニ依リ手當又ハ實費辨償ヲ與フルコトヲ得
 第二十四條 理事中不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ組合總會ニ於テ之ヲ解任スルコトヲ得但シ組合員又ハ組合員タル法人ノ取締役支配人ニ付テハ他ノ全員ノ一致アルコトヲ要ス
 第二十五條 重要ナル業務執行ハ理事會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ理事會ノ決議ハ理事過半数出席シ其ノ過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス第四條第八條第九條第十條第十三條第十四條第十六條乃至第十八條第二十七條ノ決議ニ付テハ理事五名ノ同意アルコトヲ要ス
 自己又ハ自己ノ代理スル會社推薦ヲ受ケタル組合員ノ特別利害關係アル事項ニ付テハ理事ハ表決數ニ加ハル事ヲ得ズ

第二十六條 本組合ハ必要ニ應ジ理事會ノ決議ニ依リ顧問又ハ相談役ヲ置ク事ヲ得
 第二十七條 本組合ノ製氷共同販賣價格並ニ營業ニ關スル細則ハ理事會ニ於テ之ヲ定ム
 第二十八條 組合員ハ製氷販賣所ニ於テ製氷ヲ引渡スヲ以テ足リ夫レ迄ノ一切ノ費用ハ組合員各自ノ負擔トシ其後ノ運搬費並ニ組合事務所ニ於ケル一切ノ費用ハ組合經費ヨリ之ヲ支出ス
 第二十九條 毎十日毎ニ計算シタル共同販賣其他ノ收入金ヨリ組合經費充當金トシテ百分ノx積立金トシテ百分ノ一ヲ控除シ殘額ヲ左ノ割合ニ依リ計算後三日以内ニ各組合員ニ分配スルモノトス

A 百分ノx
 B 百分ノx
 C 百分ノx

D 百分ノx
 其他 省 略

第三十條 本組合ノ決算期ハ毎年十月末日トス
 第三十一條 毎年決算期ニ於テ經費總額ト經費充當金總額トヲ比照シ過不足アルトキハ第二十九條ノ比率ニ依リ分配又ハ負擔ス

第三十二條 組合ニハ完全ナル帳簿ヲ備ヘ收支ヲ明ラカニシ決算期毎ニ收支決算表ヲ營業報告書ト共ニ組合總會ニ附議スルモノトス組合員ハ業務ヲ妨ケサル時ニ於テ何時ニテモ帳簿ヲ閱覽スルコトヲ得
 第三十三條 本組合ノ定時總會ハ毎年十一月ニ開ク臨時總會ハ理事會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員過半数ノ同意ヲ以テ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第三十四條 組合員本契約ニ違背シタルトキハ違約金トシテ一事項毎ニ第十八條ニ違反シタル場合ハ金五千圓也第三十六條ニ違反セルモノアルトキハ第九條ノ責任製造噸數一噸ニ付キ金五百圓也ノ割合第十五條ニ違反セルトキハ一回ニツキ金參百圓也其他ノ條項ニ違反シタル場合ハ一事項ニツキ金貳千圓也ヲ即時組合ニ支拂フモノトス

組合員ハ家族使用人ノ行爲ニ付テモ亦其ノ責ニ任ス違約金ハ本組合ノ積立金ニ入ル、モノトス
 第三十五條 各組合員前條ノ違約金支拂ヲ怠リタルトキハ直チニ強制執行ヲ受クルモ異議ナキコトヲ約諾ス

第三十六條 本組合ノ存續期間ハ昭和x年十月三十一日迄トス但シ期間滿了二ヶ月以前ニ於テ組合全員

ノ協議ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得
 組合員ハ組合存続期間中脱退スルコトヲ得サルモノトス
 第三十七條 A、Bカ從來行ヒ來リタル特殊賣先ニ對スル製氷ノ供給並ニ區域外ヘノ移出ハ兩者ノ特權トシテ留保シ本規約ノ制限ニ從ハス其範圍ハ組合全員ノ署名シタル別紙ヲ以テ之ヲ明カニスルモノトス
 第三十八條 本規約ノ變更ハ組合全員ノ同意アルコトヲ要ス
 第三十九條 本規約ニ規定ナキ事項ハ民法組合ニ關スル規定ニ從フ
 以 上 (公正證書作成濟)

二〇、京都凍氷商聯合組合規約寫

第一章 總 則

第一條 本組合ハ京都凍氷商聯合組合ト稱ス
 第二條 本組合ハ京都市及府下××郡ニ於テ凍氷卸賣業ヲ營ム者ヲ以テ組織シ市郡共各警察署管轄區内ヲ以テ一組合トシ更ニ聯合組合ヲ組織スルモノトス
 第三條 本組合事務所ハ京都市内便宜ノ地ニ設置ス
 第二章 目的及業務

第四條 本組合ハ同業者親睦團結シテ京都氷業藏元組合(以下藏元組合ト稱ス)ト提携シ共存共榮ノ實ヲ舉グ併セテ需給兩者ノ圓滿調節ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第五條 本組合業務ノ要綱左ノ如シ

- 一、協定價格ノ維持
 - 二、營業上ノ紛爭調停及組合裁斷
 - 三、藏元組合ト交渉連絡
 - 四、前項ノ外本組合ノ目的ヲ遂行スルニ必要ナル一切ノ事項
- 第六條 組合員ハ本規約ニ基キ制定シタル各規定ニ絕對服從ノ義務アルモノトス
- 第七條 組合員ハ本組合ノ目的達成ヲ期スル爲堅ク左ノ行爲ヲナスヘカラス
- 一、組合員ハ本組合ノ定メタル藏元組合以外ノ凍氷ヲ販賣又ハ仲次スルコト
 - 二、組合員ノ得意先ヲ爭奪シ或ハ市價ヲ攪亂シテ損害ヲ與ヘ又ハ組合員間ノ平和ヲ破壞スルノ紛議ヲ醸成スルコト
 - 三、本組合及藏元組合發表價格以下ニテ販賣スルコト及目込或ハ金品ノ提供等總テ値引ト同意味ノ行爲ヲナスコト
 - 四、特種ノ理由ニヨリ本組合ノ承認ヲ經タル外發表價格ヨリ不當ノ高値ヲ以テ販賣スルコト
 - 五、左ノ該當者ニ直接間接ヲ問ハス凍氷ノ供給其他便宜ヲ與フルコト
 - イ、藏元組合員ニ非サル製氷業者及製氷販賣業者

ロ、本組合及藏元組合ヨリ發表セラレタル取引停止者、取引謝絶者及除名被處分者
 ハ、本組合ノ目的ニ反シ本組合ニ重大ナル悪影響ヲ與フルト認定セラレタル營業用需要者
 第八條 組合員ハ新規ノ需要家アリタル場合ト雖直接ノ交渉ヲ避ケ其管内組合ノ處置ニ一任ス可シ
 得意先ノ他組合管内ニ移動ノ場合モ之ニ準ス

第九條 組合員ニシテ凍水販賣ノ個人廣告ヲナサントスル場合ニハ新聞紙及印刷物ヲ問ハス豫メ本組合
 ノ承認ヲ經且ツ是ヲ所屬組合ニ届出ツヘシ

第十條 組合員中ニ紛議アリタル時其調停仲裁等ニ關シ委員ヨリ關係帳簿ノ檢閲ヲ求メラレタル時ハ其
 係爭當事者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ其得意先ニシテ氷代金ノ支拂ヲナササル者アル時ハ其住所商號氏名金額等ヲ組合事
 務所ニ申告スヘシ組合ハ直チニ其事實ヲ調査シ正當ノ理由アリト認メタル時ハ不拂者トシテ本組合ヲ
 經テ組合員一般ヘ内報シ取引ヲ停止セシム

右ノ通知ヲ受ケタル組合員ハ之ヲ店內ニ揭示シ不拂金完済アリタルカ又ハ示談調ヒ取引停止ノ解除通
 知アル迄ハ絶對ニ之ト取引スヘカラス

第十二條 小賣業者又ハ需要家ニシテ市價ヲ攪亂シ其他組合員ニ迷惑ヲ蒙ラシムル者アル時ハ直チニ組
 合事務所ニ申告スヘシ組合ハ其賣込者ヲシテ即時之ヲ矯正セシム但シ此忠告ニ應セサル者ハ本組合ヲ
 經テ一般組合員ニ通知シテ其供給ヲ中止セシムルモノトス

第十三條 組合員ハ左ノ割合ヲ以テ組合經費ヲ負擔シ毎年三月ニ其ノ所屬組合ヲ經テ本組合ニ納付スヘ
 シ

一ケ年販賣貫數
 壹萬貫未滿 一ケ年 金參 圓
 壹萬貫以上 同 金五 圓
 同上壹萬貫迄ヲ増ス毎ニ 金貳 圓

右ノ販賣數量ハ前年度中ニ於ケル藏元取引數量ヲ基準トス

第三章 役員

第十四條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長	一名
副組合長	三名
會計理事	二名
常任理事	四名
理事	十名
幹事	十名

第十五條 組合長ハ本組合ヲ代表シ本組合ノ業務ヲ總攬ス

副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ副組合長間ニ於テ協議ノ上其一名是ヲ代理ス會計理
 事ハ組合長ヲ補佐シ且ツ主トシテ會計事務ヲ監督ス

常任理事ハ組合長ヲ補佐ス

理事ハ其所轄組合ヲ代表シ本組合重要役員會ニ出席シ其議決ヲナス
幹事ハ其所屬組合内ニ於テ理事ヲ補佐シ理事差支アルトキハ其代理ヲナシ且ツ本組合ノ重要役員會ニ
參與ス

第十六條 組合日常諸般ノ要務ハ總テ常任理事以上ノ役員ヲ以テ處理シ重要會議ニハ理事及幹事ヲ召集
ス可シ役員ノ代理者ハ條文ノ示ス者ニ限ルモ各部組合ノ理事幹事共故障アルトキハ適當ナル手續ヲ經
テ一名ノ代理者ヲ本組合重要會議ニ參加セシムルコトヲ得

第十七條 本組合役員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

- 一、組合員間又ハ組合員ト組合員外ノ者トノ營業上ノ紛議調停及組合裁斷
- 二、組合取締ノ方法
- 三、總會ニ附スヘキ議案
- 四、官公署交渉事項
- 五、違約處分ニ關スル件
- 六、經費豫算及決算ニ關スル事項
- 七、右ノ外規約ニ付本役員會ニ附スヘキ事項
- 八、藏元組合トノ交渉事項
- 九、顧問相談役ノ囑託及解囑事項

第十八條 總テ役員ノ任期ハ一ケ年トシ任期滿了後再選ヲ妨ケス但シ任期中ト雖本組合一般目的遂行上
適任ナラスト認ムル場合組合長ハ當事者ヲ除ク本組合重要會議ヲ召集シ議決ノ上其更迭改選ヲナサシ
ムルコトヲ得ヘシ

第十九條 總テ本組合役員會ノ議決ヲ以テ最終ノ裁決トス又議決シタル事項ニシテ取締上必要ナルモノ
ハ一般組合員ニ通知ス

第二十條 本組合ニ主事又ハ書記若干名ヲ置キ組合長ノ命ヲ受ケテ一切ノ事務ニ當ラシム

第二十一條 本組合ニ相談役及顧問若干名ヲ置ク

但シ藏元組合員ハ本組合ノ相談役トス

第二十二條 役員ハ總テ名譽職トスルモ相談役以外ノ役員ニハ役員會ノ議決ニヨリ報酬及慰勞金ヲ贈呈
スル事アルヘシ

第四章 總會

第二十三條 本組合總會ハ毎年十一月之ヲ召集ス

但シ時宜ニ依リ本組合役員會ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二十四條 總會ノ議長ハ本組合長之ニ當リ組合長支障アル時ハ副組合長之ニ當ル

第二十五條 總會ノ議決ハ出席員ノ過半数ニ依リ可否同數ナル時ハ議長ノ裁決ニ依ル

第二十六條 總會ニ於テ議決シタル事項ハ之ヲ一般組合員ニ通知ス

第五章 加盟脱退及資格

第二十七條 本組合ニ加盟セントスル者ハ毎年三月末日迄ニ營業所ヲ明記シタル加盟申込書ニ加盟金貳百圓ヲ添ヘ其所屬スヘキ組合ヲ經テ本組合事務所ニ申込ムヘシ支店出張所ヲ設ケントスル者モ亦同シ

第二十八條 前條ノ申込ハ其所屬スヘキ組合役員會ノ議決及藏元組合ノ承認ヲ要スルモノニシテ之ヲ一般組合員ニ通知ス

第二十九條 組合員ニシテ一ケ年以上休業スルトキハ本組合員タルノ資格ヲ失フ

第三十條 組合員ニシテ組合ヲ脱退又ハ除名處分資格消滅等ノ場合ト雖モ既ニ徵收シタル加盟金及經費ハ之ヲ返還セス

除名處分ニ依ルモノニシテ本條ノ期間内ニ更ニ復歸ヲ希望スル時ハ其事情ニ依リ懲罰委員其所屬役員ト協議ノ上金參拾圓以上ノ加盟金ヲ徵收シテ之ヲ承認スルコトアルヘシ

第三十一條 組合員店舗ヲ他ニ讓渡セントスル時ハ藏元組合ノ承認ヲ經双方連署ノ上手數料金五圓ヲ添ヘ其所屬組合ヲ經テ本組合事務所ニ届出ツヘク位置變更ノ場合モ亦同シ

第六章 調停及組合裁斷

第三十二條 紛議ノ調停及組合裁斷ハ其係争者タル組合員ヨリ請求アリタル時又ハ本役員會ニ於テ必要ト認メタル時之ヲ爲スモノトス

第三十三條 調停及組合裁斷ハ役員中ヨリ四名懲罰委員四名及當該組長ヲ委員ニ選ヒ其判定ハ委員ノ過半數ヲ以テ即決ス但シ係争當事者ヨリ委員ニ對シ忌避ノ申立アリタル時ハ本役員會ノ議ニ附シ其理由

アリト認メタル時ハ一回ニ限リ其更迭ヲナスコトアルヘシ

第三十四條 係争當事者ハ前條委員會ノ判定ニ對シ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ス

第七章 違約處分

第三十五條 本組合同約及同施行細則ニ違反シタル者ハ本役員會ノ議決ニ依リ違反ノ生シタル場所毎ニ又違反回数一件毎ニ違約金トシテ金拾圓以上金壹百圓以内ノ違約損害金ヲ徵收ス

組合員ハ其家族又ハ從業者ノ行爲ト雖モ營業上ニ關シテハ其責任ヲ免ル、コトヲ得ス但シ故意ニ其營業主ニ損害ヲ與フル目的ヲ以テナシタル事實明瞭ナル時ハ別ニ審議スルコトアルヘシ

第三十六條 左ノ各項ニ該當スル者ハ本役員會ノ議決ヲ以テ除名ス

一、組合ノ名譽ヲ毀損スルコト大ナル者

二、組合員トシテノ名譽ヲ毀損スルコト大ナル者

三、違約處分ヲ受ケタル者三日以内ニ其違約金ヲ完納セサルトキ及本役員會ノ議決ニ基ク猶豫期間内ニ徵收ニ應セサル者

四、期間内ニ經費ヲ完納セサル者

五、本組合同約ニ基ク通告事項ヲ實行セサル者

六、本規約第七條ノ規定ニ反キ藏元組合以外ノ凍水ヲ販賣スル者

第三十七條 違約處分除名取引停止及新加盟名儀或ハ位置變更等ハ必要ニ應シ是ヲ一般組合員ニ通知ス

第八章 雇人取締

第三十八條 組合員ハ其使用人ニシテ不都合ノ行爲アリ解雇シタル時ハ其事情ヲ具シ本組合事務所ニ申告スヘシ、本組合ハ直チニ之ヲ一般組合員ニ通告スヘク組合員ハ之カ雇入ヲナスコトヲ得ス
第三十九條 組合員ヨリ任意解雇セラレタル雇人ト雖モ前雇主ニ隣接セル組合員カ之ヲ雇入セントスル時ハ其雇主ノ同意ヲ要ス

第四十條 組合員以外ノ同業者従業員ニシテ本組合員ノ營業ニ妨ケアリ其氏名及通名等判明シ本組合ヨリ是ヲ雇用スヘカラスト内報アリタル者ハ假令組合員外同業者ヨリ浪店セル後ト雖モ本組合ノ承認ヲ經スシテ是ヲ使用スルコトヲ得ス

第九章 經理

第四十一條 本組合ノ會計年度ハ毎年十一月一日ニ始マリ翌年十月三十一日ニ終ルモノトス

第四十二條 本組合ノ經費ハ第十三條ノ賦課金收得違約金加盟金及諸利息雜收入等ヲ以テ之ニ充用ス

各部組合ノ經費ハ其組合各自ノ負擔トシ豫メ本組合ノ承認ヲ得ヘシ但シ其ノ經費ハ一ケ年金一圓以內トシ若シ未納者アルトキハ本組合經費ト同一ノ取扱ヲナスコトアルヘシ

第十章 雜則

第四十三條 本役員會ノ議決不當ナル事ヲ發見シタル場合ハ直ニ之ヲ改廢スルヲ以テ足り相手方ニ對シテハ其損害賠償ノ責ニ任セサルモノトス

第四十四條 本規約實施ニ必要ナル細則ハ別ニ本規約施行細則トシテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第四十五條 各部組合ハ各其區内ノ事情ニ依リ本組合同規約ニ基キ特別ノ規約ヲ定ムルコトヲ得但シ此ノ

場合本組合及藏元組合ノ意ヲ要ス

第四十六條 組合員ノ除名取引停止等ノ處分ニ關シテハ豫メ藏元組合ト協議ヲナスヘキモノトス

第四十七條 本組合ノ改正ハ總會ノ議決ニ依ルモノトス

以上

一一、附 錄

一、各製氷組合ノ事務所所在地

帝都製氷業組合	日下事務所移轉先物色中ト開ク 東京市本所區業平橋一丁目二番地ノ一
京都製氷業藏元組合	大日本製氷株式會社氣付トスレバ廻付セラルベシ 京都市下京區御幸町通り四條下ル大壽町三百九十四番地
若丹製氷業組合	京都府加佐郡舞鶴町字田邊舊砲臺跡百十七番地
大阪製氷業組合	大阪市西區新町通り一丁目一四 大阪鐵工業會館内
宮城縣製氷業組合	宮城縣鹽釜町字臺六七 鹽釜港製氷株式會社内
全九州製氷業者大會實行委員本部	博多市石城町二丁目十九番地 大日本製氷株式會社博多出張所内

備考 右ハ京都側承知ノ分ノミニテ各地方ニ權威アル組合有之由ナルモ遺憾ナガラ連絡無之ニ付此際何卒御通知願度候

二、昭和六年十月二十二日奈良市公會堂ニ於ケル全國製氷業者大會ノ決議寫

- 一、各府縣ニ一層堅實ニシテ且ツ權威アル組合ヲ組織スル事
 - 一、右組合組織ニ關シ隣接府縣ニ於テ相互ニ完全ナル連系ヲ保チ遺憾ナキヲ期スル事
 - 一、全國組合ノ聯合本部ヲ東京ニ設置スル事
 - 一、生産過剩地方ニ於テ新企業出願ノ場合特ニ需給ノ關係ヲ慎重考慮ノ上處置セラレン事ヲ當局ヘ陳情スル事
 - 一、氷雪營業取締規則ヲ適當ニ改正セラレン事ヲ其ノ筋ヘ請願スル事
- (以上三都氷業組合ノ提案)
- 一、消費増進ニ關スル機關ヲ設置スル事
- (以上大阪氷業組合提案)

備考 本大會ノ狀況ハ大阪市港區東田中町六丁目六〇

日本氷業新聞昭和六年十月二十五日號ニ詳記セラレアリ

◎御 斷 り

- 一、東京宮城全九州等資料御寄贈ノ各位ニ對シ深甚ノ敬意ヲ表シ且ツ採録適當ナラズ又校正ニモ餘日無カリシ爲メ誤謬脱漏等多ク折角ノ御厚意ニ反スル點アルベキハ固ヨリ其所ニシテ深ク御詫ビ申上候
- 二、印刷物體裁ヲナサズ且ツ意義不明ノ點ハ宜敷御判讀願上候

昭和六年十二月十五日印刷
昭和六年十二月二十日發行

(非賣品)

編輯者 京都市左京區下鴨膳部町一五番地 島 谷 憲 造

發行者 京都市左京區岡崎圓勝寺町百四十番地 福 地 久 吉

印刷者 京都市東山區三條通神宮道東入 仲之町一八八番地 奥 村 理 一

印刷所 京都市東山區三條通神宮道東入 仲之町一八八番地 南 高 堂 印 刷 所

發行所

京都市下京區御幸町通四條南入
大壽町三九四番地
京都氷業藏元組合

終

